

管理薬剤師アンケート報告書（その2）

—多職種連携の実態、健康サポート薬局のメリットと課題、面処方箋に係る実態—

一般社団法人 日本保険薬局協会
薬局機能創造委員会

2024年3月

調査概要

- 目的：薬局サービス及び多職種連携の実態と課題等に関する調査
- 内容：報告その1) ①薬局機能等に係る実態(16問)、②薬局の実績(11問)、③多職種連携の実態(12問)
報告その2) ④健康サポート薬局のメリットと課題等(7問)、⑤面処方箋に係る実態(6問)
- 対象：日本保険薬局協会会員薬局 管理薬剤師
- 方法：オンラインWEB調査 1薬局1回答
- 回答期間：2023年12月18日～2024年1月31日
- 回答数：5,415薬局 (29.0%)*¹
- 実施主体：一般社団法人日本保険薬局協会 薬局機能創造委員会
- 倫理審査：日本薬局学会倫理審査委員会 受付番号23005

調査結果④⑤ Summary

健康サポート薬局のメリットとして「患者との会話の幅が広がった」「地域における薬局の認知度、満足度が向上した」といった回答がみられ、健康サポート機能を発揮している薬局は一定数あるという実態が見えた。収益面では25.4%の健康サポート薬局が「OTC売上が増えた」と回答された、一方で、61.5%が「収益面のメリットがない」と回答し、健康サポート機能を発揮する上での経営的な持続性に課題があることが示唆された。また、健康サポート薬局の認知度向上や、より機能を発揮するために、他の薬局と差別化できるような機能付加や、広報施策を求めるコメントが見られた。

面処方箋に係る実態調査については、応需医療機関数の中央値50.0、平均値73.5、受付回数が月5回以下の医療機関数の中央値40.0、平均値58.5であり、モール型及び面対応の薬局で多く、開局して1年未満の薬局において少ない傾向であった。面処方箋*²を応需した場合の対応の難しさについては、65.3%は難しさを感じると回答。その理由としては、医薬品在庫、医療機関との連携、患者情報の順で回答数が多く見られた。また、「面処方箋を持参される患者の傾向」において、「不定期利用患者が多い」「新規患者が多い」を選択された薬局では、面処方箋を応需した際に難しさを感じると回答した割合が高い傾向であった。困ったエピソードとして処方薬取り揃えや医療機関との連携に関する内容が多く報告されたが、地域の中で、事前に医療機関と薬局とが情報連携を行うことで解決できるであろう内容もみられた。

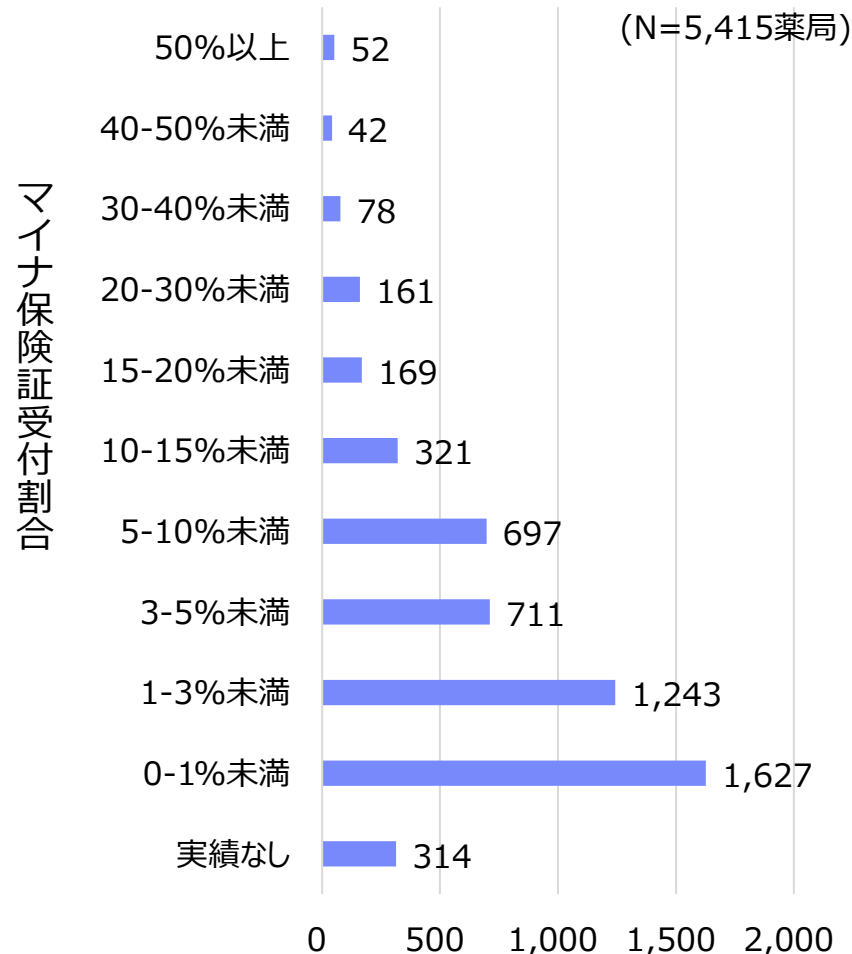
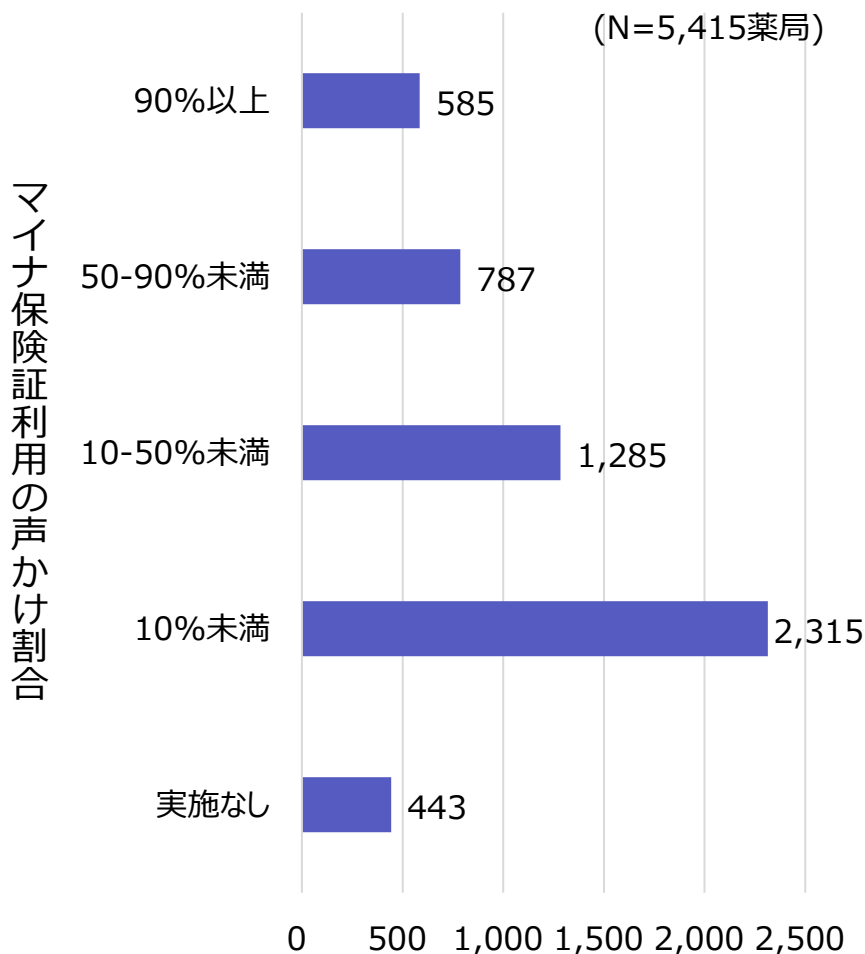
健康サポート機能についても、面処方箋対応についても課題はあるものの、いずれもモデルとなるような好事例があることから、引き続き協会活動を通じて、会員の薬局が着実に機能を高められるよう努めていく。

▶ *¹ NPhA正会員の薬局数18,695 (2023年9月13日現在) ▶ *² 面処方箋：本調査では「受付回数が月5回以下」となる医療機関の処方箋とします。

マイナ保険証 23/11月実績

マイナ保険証の持参確認や利用の声かけを実施している薬局の割合は91.8%と、薬局現場での働きかけは浸透してきている。一方で、声かけ割合50%以上の薬局は25.3%、マイナ保険証受付割合の中央値は1-3%未満、10%を超える薬局の割合は15.2%であった。

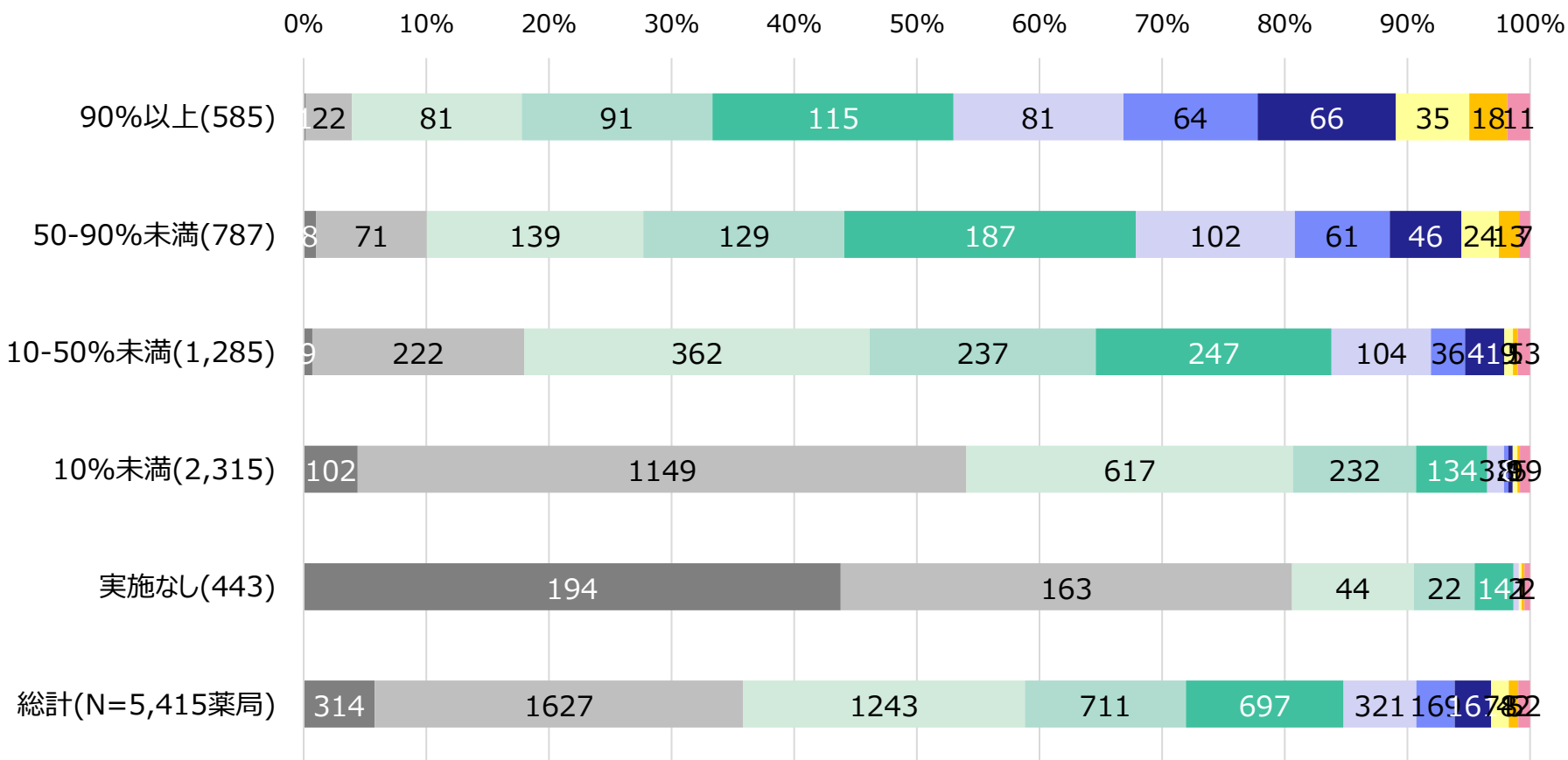
- マイナ保険証の持参確認や、受付での利用の声かけを実施したおおよその割合を教えてください。 ■ マイナ保険証受付を実施したおおよその割合を教えてください。



マイナ保険証 声かけ × 23/11月実績

マイナ保険証の持参確認や利用の声かけ割合が高いほど、マイナ保険証受付割合が高い傾向が見られた。

マイナ保険証利用の声かけ割合



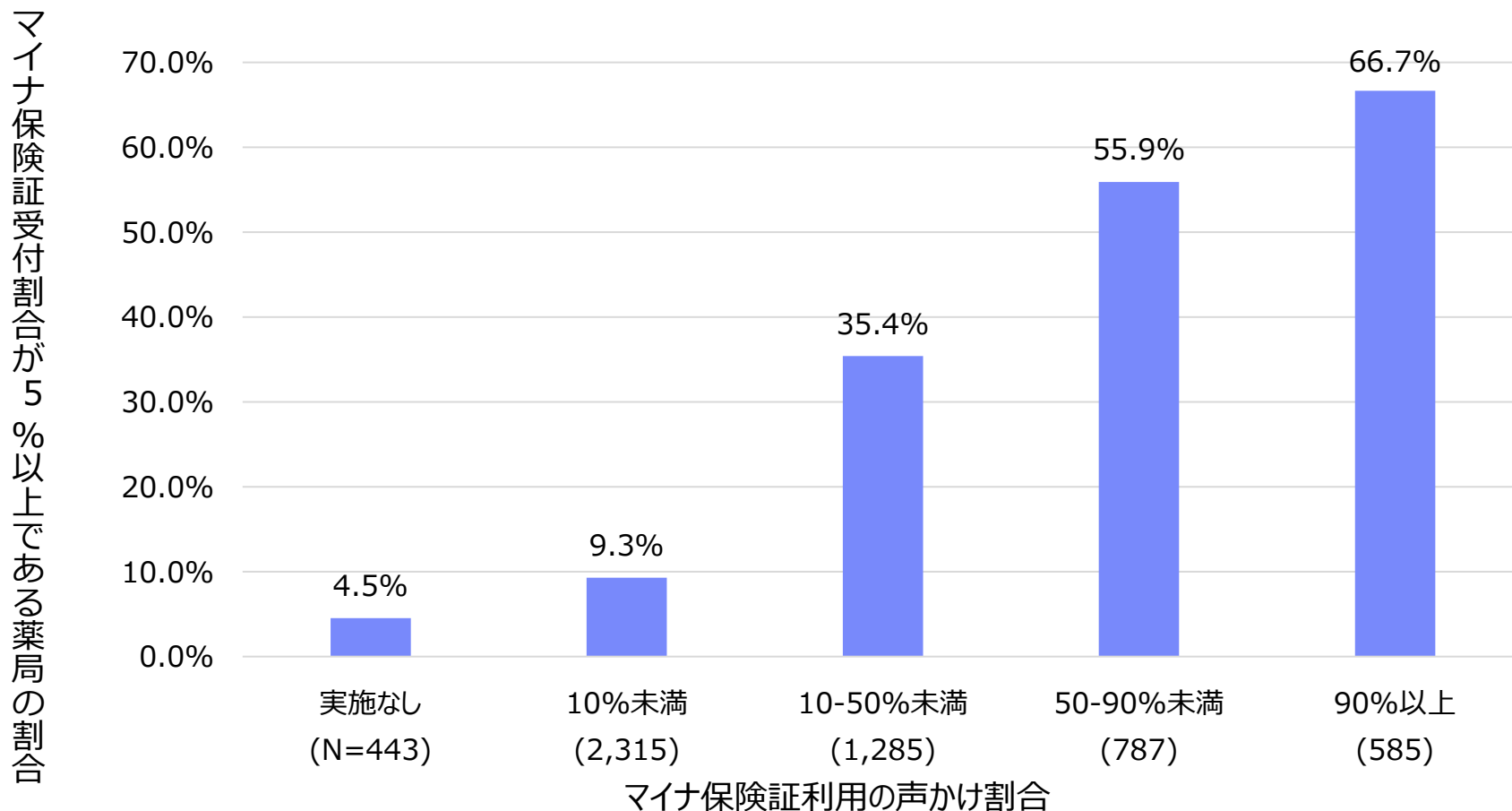
マイナ保険証受付割合

■ 実績なし ■ 0-1%未満 ■ 1-3%未満 ■ 3-5%未満 ■ 5-10%未満 ■ 10-15%未満
 ■ 15-20%未満 ■ 20-30%未満 ■ 30-40%未満 ■ 40-50%未満 ■ 50%以上

マイナ保険証 声かけ × 23/11月実績 の検定

マイナ保険証の持参確認や利用の声かけ割合が高いほど、マイナ保険証受付割合が5%以上である薬局の割合が有意に高くなることが示された。

■ 声かけ割合別の、マイナ保険証受付割合5%以上である薬局の割合
カイ二乗検定の結果、すべての群間で有意差が得られ ($P < 0.01$)、声かけの効果が示唆された



▶ 多重比較のP値はHolm法で補正して検定した。

多職種連携の具体的な内容

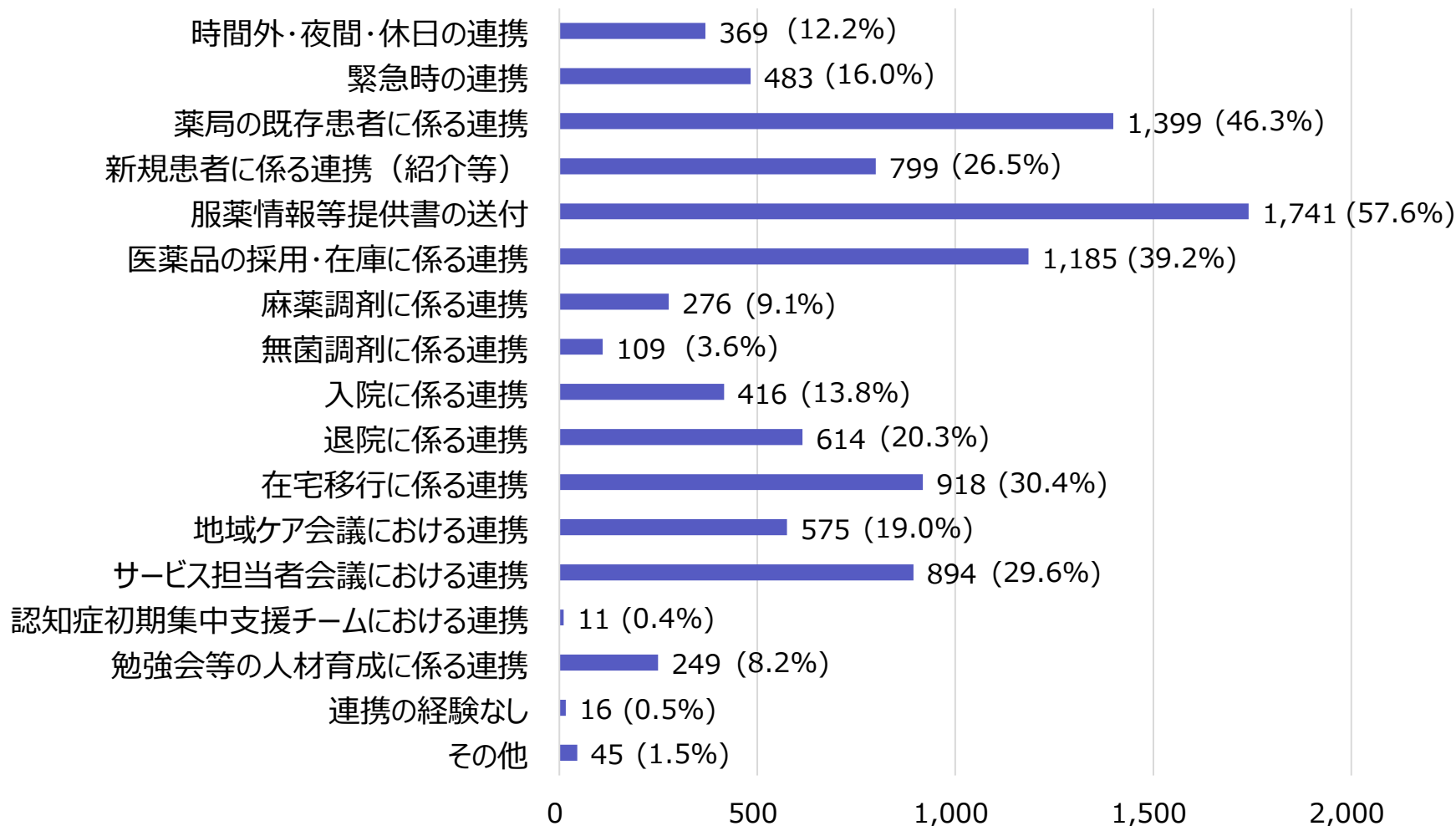
- 医療機関の地域連携室（それに類似する部署）との連携
- 他薬局との連携
- 訪問看護ステーションとの連携
- 介護関連支援施設（地域包括支援センター、居宅介護支援事業所等）との連携

地域連携室との連携内容

医療機関の地域連携室とは「服薬情報等提供書の送付」や「既存患者に係る連携」の回答が多かったが、その他にも入退院時連携や、在宅に係る連携、緊急時の連携など、幅広い連携内容において回答が集まった。

■ 医療機関の地域連携室（それに類似する部署）との連携内容（複数回答可）

(N=直近1年に連携実績あると回答した3,020薬局)



地域連携室との具体的な連携内容①

- 医療機関の地域連携室（それに類似する部署）との連携の中で印象に残っている具体的な事例があれば教えてください、また「その他」を選択された方は具体的な内容を教えてください。（フリーコメント 任意回答）

既存患者・新規患者に係る連携（84件）

- 化学療法が始まった患者の情報提供と注意すべき事項の連絡
- 薬局にて病院のカルテを閲覧できるシステムがあり、そのやりとりにて定期的に連絡をとっている
- 薬局の既存患者に係る連携や在庫状況の共有で無用な疑義照会が減り、お互いに業務効率化が来ている
- 主応需先病院に受診されていた患者様が他医療機関で訪問診療を開始になり、現在の服用薬剤情報や今後の診療計画など複数回に渡り連絡を取り、連携を図った
- 転院してきた患者の服用薬についての問い合わせに対応し、処方設計の参考にして頂いた
- 睡眠コントロールと睡眠導入剤用量についての服薬状況の報告と提案。多科、多剤の管理不良のため一包化提案
- 薬局に来られた患者で認知機能が心配な方に現在ケアマネ等が入っているかの確認、薬局での行動を医療機関に報告して、今後病院からもサポートしてもらうことを提案
- 認知症による重複服用があり、医師、訪看、ケアマネに相談。協議の結果、偽薬（乳糖）もカレンダーにセットし、防ぐことができた。ケアプランの変更で、ヘルパーのなどの訪問頻度が上がりより患者の生活の質が上がった
- 居宅療養管理指導のMCSという医療連携SNSにてリアルタイムでの報告
- 新規採用の処方薬について、患者に調剤後フォローを実施し、その経過を報告・共有

医薬品の採用・在庫に係る連携（66件）

- 出荷調整品についての情報提供や代替薬の提案
- 定期的に出荷調整等による在庫の入手可否について情報共有をしている
- 医薬品流通が滞っている中、薬局在庫を都度報告し、医師が残を把握した上で対応して下さることに感謝している。定期的な訪問、面会により顔の見える関係が出来たことが大きい
- 抗がん剤や麻薬など、在庫してほしい旨、事前に薬局へ連絡があった
- 抗がん剤治療中の患者より次のクールから自宅近くの薬局にて薬をもらいたいという希望があり、大学病院から在庫可能か問い合わせがあり事前に流通状況など確認・発注して準備を行った
- 輸液の処方予定があると連絡があり、事前準備ができ、患者様へのお渡しがスムーズにできた
- コロナ治療薬に対する、適格性チェックや服薬フォロー時のフィードバック、在庫・流通状況等小まめにやり取りしている

地域連携室との具体的な連携内容②

- 医療機関の地域連携室（それに類似する部署）との連携の中で印象に残っている具体的な事例があれば教えてください、また「その他」を選択された方は具体的な内容を教えてください。（フリーコメント 任意回答）

入退院に係る連携（72件）

- ・ ケアマネジャーから手術のため入院予定の連絡が入り、お預りしているお薬を持参したほうがよいかどうか、持参する場合はどのような調剤方法（PTP、一包化、一包化の場合の印字方法等）を確認することができ、入院前に準備することができた
- ・ 手術目的で入院予定がありフォシーガ錠®を指定期間一包化より外して欲しいとの依頼
- ・ コンプライアンス不良の患者に関して継続的にトレーニングレポートを提出していたところ、連携室・Drにご覧いただき、該当患者の退院・在宅移行にあたり退院時共同指導に呼んでいただいた
- ・ 入院患者が退院で外来に変わる際に入院先の病院から情報提供いただいた
- ・ 退院により在宅ケアになる場合の連携や、自宅でどのように介護ができるか、薬の選択などについて話し合い、スムーズに移行できた
- ・ 病院より退院予定の終末期医療の在宅受け入れについて往診施設と薬剤部との麻薬調剤、退院引継ぎに関する日程調整に関するやり取りを実施

在宅に係る連携、会議（97件）

- ・ 在宅が必要と考えられる患者について、地域連携室を介して医師に相談をした
- ・ 在宅患者の往診情報、薬剤情報などを医療機関とまめにやり取りしているため、情報交換がスムーズに行えている
- ・ 麻薬の持続注と中心静脈栄養を行っている患者で注射の内容や切替のタイミングなど地域連携室と連絡を取り合いながら在宅へ移行した
- ・ 在宅の患者様で、病院が薬局に求めることなども地域連携室を通して聞けたので動きやすかった
- ・ 施設の在宅訪問を行なってる患者で、低血糖のため急遽グラクティブを半錠に変更すると病院より連絡あり。患者本人と施設スタッフに連絡してすぐに薬の変更を行った
- ・ 施設処方元の医療機関、在宅部門とは処方の度に、電話でやりとりしている。定期に合わせるには処方日数を何日分にしたら良いかという問い合わせや、処方追加の理由などを教えてくれる

その他（53件）

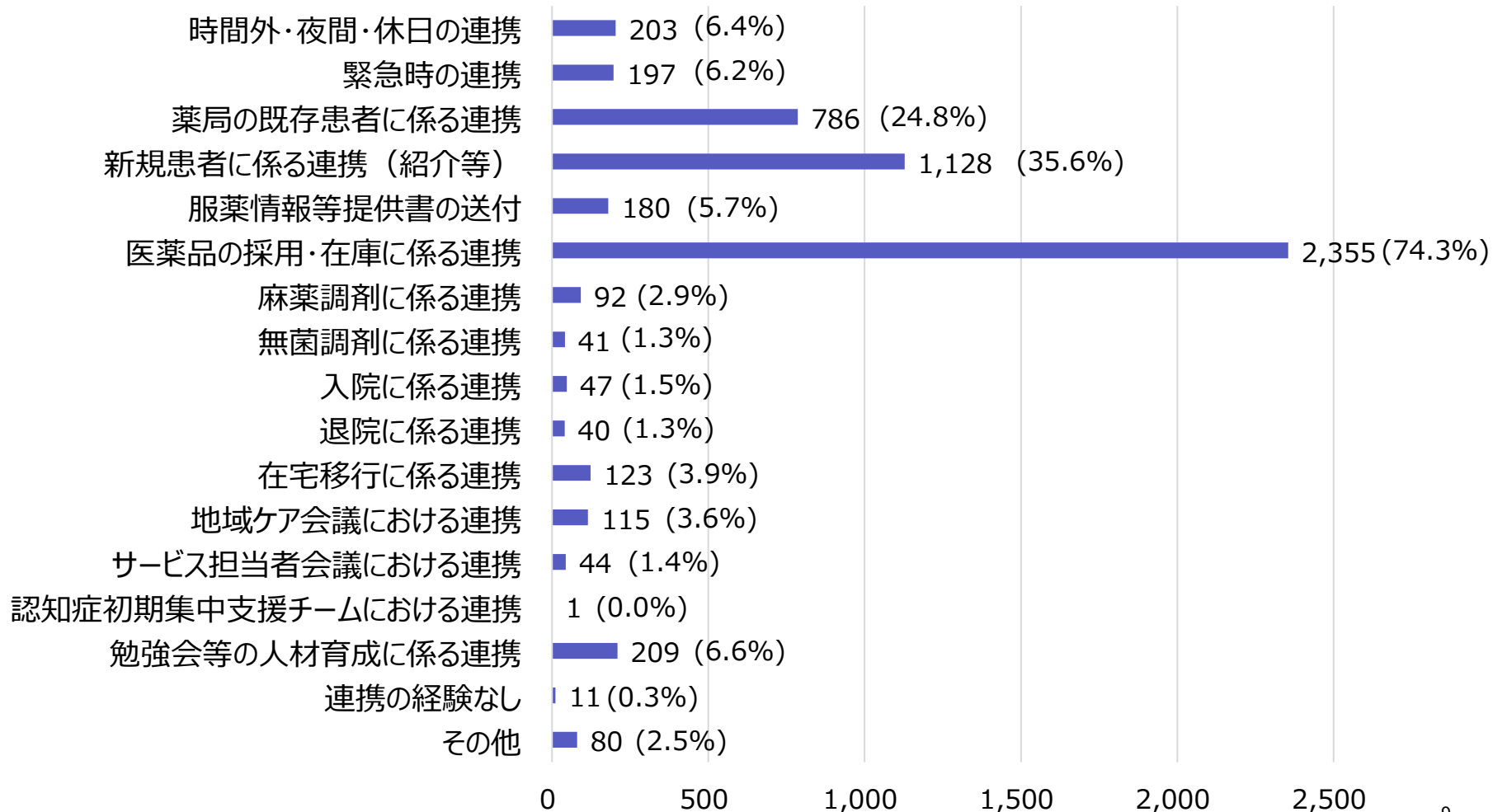
- ・ 町民に対して薬に関するアンケートを実施し、何に対して困っているか、薬の飲み忘れなどに対するアンケート結果を参考に、今後医療従事者として実施すべきことを会議で話し合った
- ・ 今後、病院側で災害などで処方箋発行が出来なくなった際のシミュレーション会議を行った

他薬局との連携内容

他薬局とは「医薬品の採用・在庫に係る連携」の回答が最も多く、次いで「新規患者に係る連携（紹介等）」の回答が多く見られた。

■ 他薬局との連携内容（複数回答可）

(N=直近1年に連携実績あると回答した3,168薬局)



他薬局との具体的な連携内容①

- 他薬局との連携の中で印象に残っている具体的な事例があれば教えてください、また「その他」を選択された方は具体的な内容を教えてください。（フリーコメント 任意回答）

既存・新規患者に係る連携（62件）

- ・ 既存患者が施設に入所するにあたり、施設を担当する薬局に情報提供を行った
- ・ 患者は緑内障治療薬を使用中であるが、併用が心配な薬を服用しているため病型を教えてくださいとの連絡あり（眼科は電話がつかない為）
- ・ 足が悪くなってしまい、自薬局に来ることが難しくなった患者を自宅近くの薬局に紹介したことがある。事前に患者の了解を得て患者のお薬の調剤方法などをお伝えしたことで、スムーズに薬局を変えることができた
- ・ 訪問介護より在宅依頼あり 患者住所や状況を加味し、他薬局で対応可能か確認し、他薬局が在宅対応する事となった
- ・ 特定疾患を複数持つ患者について薬局間で連携を図った
- ・ リフィル処方箋2回目以降の対応において、併用薬についてなど、薬局間で情報連携を行った
- ・ リフィル1回目を他薬局での受取した患者の際に、連絡事項がないか1回目受付の薬局に確認を取っている
- ・ オーバードーズの患者についての情報共有
- ・ 特定の薬品について、複数医療機関で意図的に重複処方を繰り返す患者についての情報提供
- ・ 眠剤の複数医療機関からの重複処方の連絡を病院薬剤部からいただいたので、関係する薬局にも連絡した
- ・ 採用薬剤の有無、県をまたいでの公費の使用可否、等で相互に紹介する関係性がある
- ・ 特徴のある処方に関して、処方元のDrへの疑義照会の方法や処方の傾向を、門前薬局の薬剤師に教えていただいた経験あり

時間外等の連携（4件）

- ・ 近隣薬局と持ち合いの時間外専用の携帯へ患者や医療機関からの連絡があり、スムーズな引継ぎ対応ができた

麻薬・無菌調剤に係る連携（7件）

- ・ 点眼薬の調整を処方されたがクリーンベンチを持っておらず調剤させてほしいとの連絡を受けた
- ・ 無菌調剤室共同利用に係る体制の整備
- ・ 麻薬希釈調剤でシリンジと針の緊急調達で他薬局と連絡を取り、事なきを得た

他薬局との具体的な連携内容②

- 他薬局との連携の中で印象に残っている具体的な事例があれば教えてください、また「その他」を選択された方は具体的な内容を教えてください。（フリーコメント 任意回答）

医薬品の採用・在庫に係る連携（136件）

- ・ 医薬品の供給不安に対して、近隣の薬局間における薬の貸し借りで何とかやりくりをしている
- ・ 処方薬がない場合の、他薬局で対応可能かの確認・紹介
- ・ 鎮咳薬、去痰薬をはじめとする出荷調整品の近隣薬局の在庫状況を情報交換し、小分け購入や患者紹介を行うことで、薬を探してさまよう患者をなくすよう努めた
- ・ 不動になっている高額の商品のやりとり
- ・ 個人薬局より、ゾコーバ®を多く在庫できないので、処方が多く出たら患者を回してよいか相談あり。そのオペレーションと一緒に構築し、実際に数件の患者を受け入れた
- ・ 医薬品の流通不安で他薬局に患者紹介する機会が増えたため、患者情報を共有するために連携をとる場合がある
- ・ 昨今の医薬品供給不安定により、各薬局長と在庫状況の確認事項でお話する機会が増え、顔が見える関係になるので、声掛けしやすい状況となっている
- ・ アスベリン錠®について LINEにて小分け依頼実施。十数薬局のうち、2薬局より小分けしていただくこととなった

勉強会等に係る連携（6件）

- ・ 病院、医師、門前薬局、薬剤師会参加で、月1開催の連絡会(癌領域の勉強会の後に定期連絡会が開催されている状況)
- ・ 合同で新規採用薬の勉強会を行った

その他（37件）

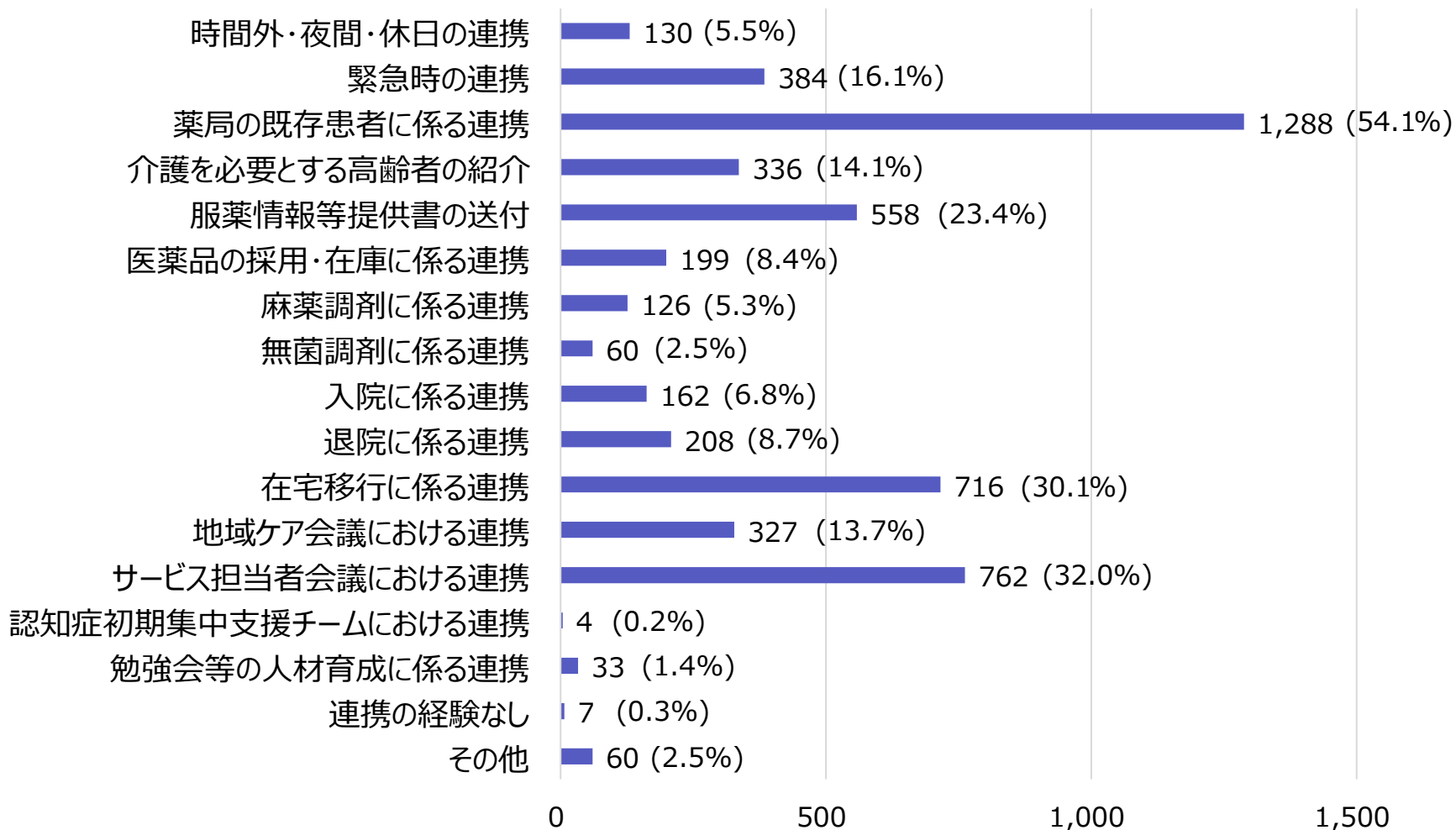
- ・ 地域の催し物で分包機を用いた調剤の体験を子供たちにしてもらうことを年に1回行っており、こういった取組みの協力関係がある。また、献血のボランティアの人員調整も行っている
- ・ 健康イベントの開催、学校薬剤師の活動、新型コロナワクチン集団接種の分担などに関して連携
- ・ 地元の薬剤師会を通して血糖測定を実施するため、その際に薬局間で連携がある
- ・ 薬局所在地の災害で、一部薬局において通常営業が出来なくなり、調剤機器の共有や薬剤の確保などの連携を行ったことがある
- ・ 利用する薬局ごとで説明に相違がないよう混合不可の軟膏などの調剤方法を近隣薬局で統一した
- ・ 緊急避妊薬の販売にあたり、県内の対応薬局にて協議を実施した(グループLINE、対面会議)
- ・ 閉局予定のある近隣薬局の主応需耳鼻科についての情報共有とプロトコルの作成に協力し、閉局後の患者トラブルを回避した

訪問看護ステーションとの連携内容

訪問看護ステーションとは「サービス担当者会議における連携」「在宅移行に係る連携」「服薬情報等提供書の送付」の回答が多く、「緊急時の連携」も一定数の回答が見られた。

■ 訪問看護ステーションとの連携内容（複数回答可）

(N=直近1年に連携実績あると回答した2,380薬局)



訪問看護ステーションとの具体的な連携内容①

- 訪問看護ステーションとの連携の中で印象に残っている具体的な事例があれば教えてください、また「その他」を選択された方は具体的な内容を教えてください。（フリーコメント 任意回答）

薬局の既存患者等に係る連携（70件）

- ・ 訪問看護師から服薬状況が良くないと報告をいただき、どのようにしたら改善するか提案し対応したところ、服薬状況が改善した
- ・ 訪問看護師から薬の一包化について提案があった
- ・ 外来患者の自宅に不足薬を届けた際に他院からの薬を訪問看護師が数十分かけて仕分けしていたとの情報を得て、薬局で回収して一包化対応した
- ・ オーバードーズの患者のコントロールで残薬やお届けを綿密に行う必要があり、看護師にも薬の服薬状況を確認していただいた
- ・ 夜間に不穏に陥って薬局の待機携帯に電話をしてきた患者。その情報を翌朝すぐに担当訪看にも共有、その患者への対応方法についてコンセンサスを取ったことで統一した対応をとることができ、患者の精神状況を落ち着かせることができた
- ・ 他院へ受診同行した際の診療内容、検査結果などの共有
- ・ 門前病院併設の訪問看護ステーション職員が、当薬局と関わりのない患者の薬の内容や服用法についてアドバイスを求めに連絡してこられることがある
- ・ 他薬局利用の複数病院通院中の患者に対し、複数病院の薬をまとめて一包化してくれる薬局がないと相談あり。それに対応して以来、複数病院からの処方薬一包化の依頼が増えている

サービス担当者会議・在宅（63件）

- ・ サービス担当者会議に参加し、退院後の治療方針を決める為に相談した
- ・ 在宅訪問患者宅でのケア会議にて、お薬、食事、デイサービス等のQOL上昇に繋がるように相談させていただけた
- ・ 最近になり在宅連携会議に参加させていただくことが出来るようになり、実際の患者が抱えている問題点（残薬だったり実際の疾患の状況等）を確認できている
- ・ 在宅患者の服薬管理状況報告のような個別事例の相談、連携がメイン
- ・ 在宅訪問患者の現状共有や緊急時の対応のすり合わせ等
- ・ 在宅患者で、痛み止めが連日服用から頓服服用になった際の配薬方法などの相談を電話で行った
- ・ カレンダーセットしても重複で何包も服用してしまう認知症患者の薬を訪問看護ステーションで管理いただいており、その残薬確認など
- ・ 在宅患者の病状が急変し、処方が出た際、ケアを含め訪問してもらった
- ・ 毎週一緒に在宅訪問を行っている。そうすることで患者の状態や検査値など把握ができる
- ・ 在宅患者の処方医薬品の副作用発生頻度（頭痛）の調査依頼があり、処方薬剤全ての副作用発生頻度を提供した

訪問看護ステーションとの具体的な連携内容②

- 訪問看護ステーションとの連携の中で印象に残っている具体的な事例があれば教えてください、また「その他」を選択された方は具体的な内容を教えてください。（フリーコメント 任意回答）

麻薬・無菌調剤（14件）

- ・ 麻薬を使用している患者の疼痛コントロールについての共有
- ・ 現在飲んでいる麻薬の用量について、レスキュー使用の場合はどの程度まで可能なのか看護師よりの質問。用量を回答し訪問看護の時にアドバイスしていただいた
- ・ 麻薬注射の開始やポンプの切り替えの際に密に連携を実施して無駄な待機時間を削減した
- ・ 麻薬のポンプを用いての静脈注射のカセット入れ替えタイミングなど、訪問看護師と連絡をとりあい対応できた
- ・ 中心静脈栄養の患者に対して処方医も交えて必要な医療材料等を協議した
- ・ 輸液バッグへの混注が可能かどうかについての問い合わせがあり、薬局は休日であったため転送電話での対応であったが、その場ですぐに調べ返答
- ・ メディカルケアステーションを用いて、ディスプレイポンプに充填しているモルヒネ注の残量、レスキュー使用頻度、患者の状態を情報共有し、次回の処方タイミングや麻薬投与量の医師への提案を行った

その他（29件）

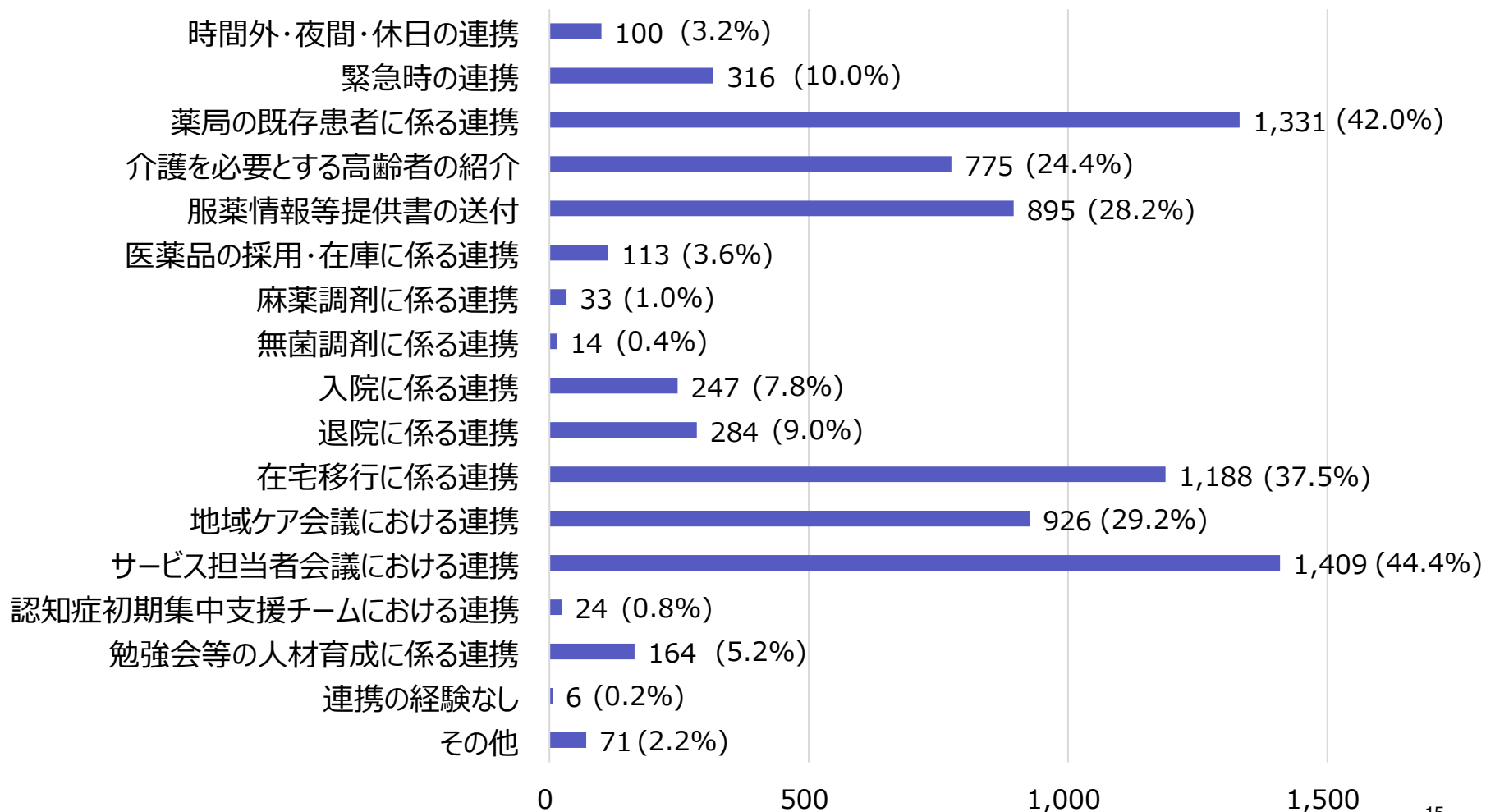
- ・ 訪問看護ステーションと定期的にWEB研修会を行っている
- ・ グループ内の多職種を集めた会で、お互いの出来ることについて確認した。薬局が在宅で対応できることについて説明し、日々の疑問についての質問に回答した
- ・ 薬局主催で服薬支援ロボットの勉強会を実施

介護関連支援施設との連携内容

介護関連支援施設とは「地域ケア会議・サービス担当者会議における連携」「在宅移行に係る連携」「服薬情報等提供書の送付」「介護を必要とする高齢者の紹介」の回答が多く、シームレスな医療を支える連携実態が伺えた。

■ 介護関連支援施設（地域包括支援センター、居宅介護支援事業所等）との連携内容（複数回答可）

（N=直近1年に連携実績あると回答した3,172薬局）



介護関連支援施設との具体的な連携内容①

- 介護関連支援施設との連携の中で印象に残っている具体的な事例があれば教えてください、また「その他」を選択された方は具体的な内容を教えてください。（フリーコメント 任意回答）

薬局の既存患者に係る連携（70件）

- ・ 訪問についての相談や病院受診後のお薬の対応についての相談を行い、患者のより良い在宅介護に生かしている
- ・ 独居で軽度認知症の方の吸入薬の管理がなかなかうまくいかず困っていた。ケアマネと連携し、訪問看護、訪問リハビリ、家族も巻き込んでフォローしていく体制を作る事が出来た
- ・ ケアマネやナースと、施設入居患者の嚥下・動作状態に応じたプランニングを行った
- ・ 包括支援センターのケアマネからお薬を取りまとめて管理してもらえないかと直接電話を頂き、介入。服薬支援という名目で介入開始し、介護認定を受けた段階で在宅となった
- ・ グループホーム入居者について、施設長、往診医、訪問看護と連携連絡しており、体調不良時の連絡、服薬状況、臨時処方薬が必要であれば、併用薬確認、腎機能に応じた投与量設定の依頼などしている

在宅移行に係る連携（37件）

- ・ 病院に行くのが困難と思われる来局患者（かかりつけ薬剤師になっている）についてケアマネジャーに相談した
- ・ 外来で受診を従来からしている患者だったが、独居での生活・受診に困難な様子が見られたため、地域包括支援センターへの相談。ケアマネジャー等をつけてもらい、在宅医療・デイサービス等の利用に移った
- ・ 既存患者で認知症が進行しており、独居のため、何かアプローチしてもらえないかお願いした
- ・ 認知症により生活に支障が出ている患者を地域包括支援センターに紹介。介入してもらい生活の立て直しを図った
- ・ 認知症の患者で薬の紛失が多い、頻繁に受診を繰り返すなど、問題が発生した際、地域包括支援センターに連絡をし情報共有したところ、すぐに介護保険の申請まで進み、在宅を利用する形となった
- ・ 外来の独居老人の認知度低下に関する相談を地域包括支援センターに相談して、ケアマネジャーへと繋いだ。その後、しばらくして、サ高住へと入居になったが、偶然当薬局が、在宅医の在宅訪問への同行から、服薬指導を担当していた施設だった
- ・ 小児難病の患者で保護者と1か月後または2か月後を見越した計画の中で患者、病院、ケアマネとどのように対応していくか話し合った。結果的に当薬局では受けなかったがグループ内の別薬局で受け入れることができ、この引継ぎもうまくいった
- ・ ターミナルで麻薬や眠剤の服薬拒否がある患者で事前にケアマネから本人や家族の希望等の情報を聞いていたため、本人・ご家族とのコミュニケーションもスムーズにできた。事前に情報を得ることによりご家族によりそう提案ができた
- ・ 包括支援にて担当患者が転居に基づき当薬局近隣にお引越し。その際の麻薬調剤緩和ケアについて相談を受けて在宅担当として医師に連携、現在在宅訪問を行っている

介護関連支援施設との具体的な連携内容②

- 介護関連支援施設との連携の中で印象に残っている具体的な事例があれば教えてください、また「その他」を選択された方は具体的な内容を教えてください。（フリーコメント 任意回答）

入退院に係る連携（5件）

- ・ 患者が入院になったときに教えてくれた
- ・ 在宅患者が入院した時に担当のケアマネジャーがすぐに情報共有してくれたので入院した医療機関に服薬に関する情報と薬局預かりにしていたお薬を届けることができ、医療機関に喜ばれた
- ・ 退院時共同指導に参加してあらかじめ患者と薬の一包化等について話をする事で初回訪問がスムーズに行えました

地域ケア会議等に係る連携（29件）

- ・ 在宅患者のサービス担当学会議に出席させていただいた際に薬局薬剤師が把握していない患者の情報を共有できた
- ・ 担当学会議にて患者の現状の把握やデイでの様子を含め、食事排せつなどの支援をどのようにしていくか意見交換できた
- ・ 地域ケア会議に参加し、認知症の方を街の人たちでどう見守っていくか対策を話し合った
- ・ 既存の患者の認知症の症状が悪くなって、担当学会議をひらいた
- ・ 定期的に薬局で取り組んでいる地域活動の紹介で訪問し、ご挨拶に伺っています。その他年に1回ですが、地域ケア会議に参加し、地域の介護、医療の連携やサービスの在り方について検討会を行っています

その他（49件）

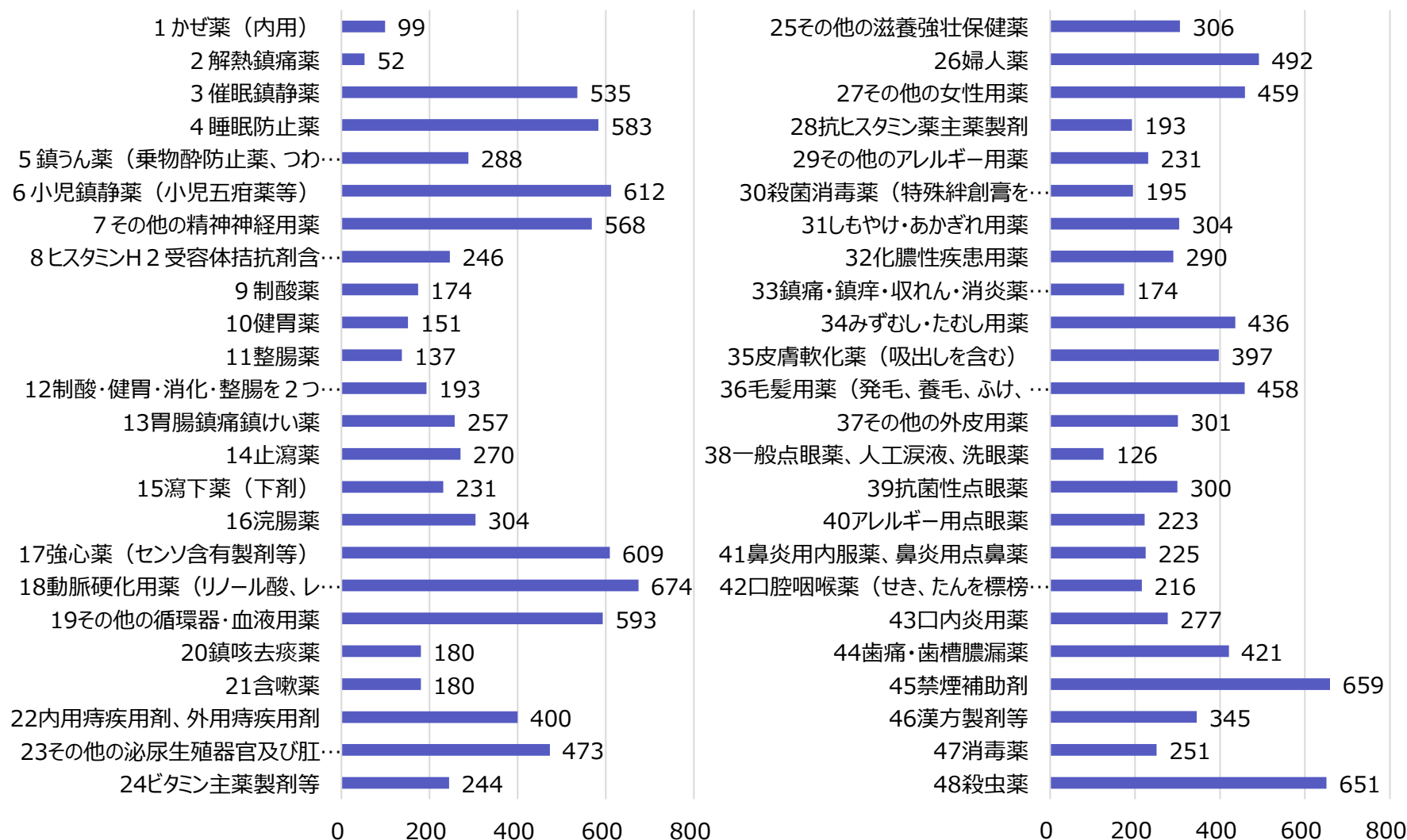
- ・ 地域包括支援センターを介して、地域住民への講演会を実施
- ・ 地域包括センターより家族介護教室講師の依頼あり
- ・ 居宅介護支援事業所での勉強会に講師として参加
- ・ 地域包括支援センター主催の街かどケアカフェへの協力
- ・ 地域でのチームオレンジの発足とその参加運営を連携して行っている

健康サポート薬局のメリットと課題等

販売実績がないカテゴリー

■ 健康サポート薬局に供給することが求められる「基本的な48薬効群」について、直近1年間において販売実績がないカテゴリーを教えてください。（複数選択可）

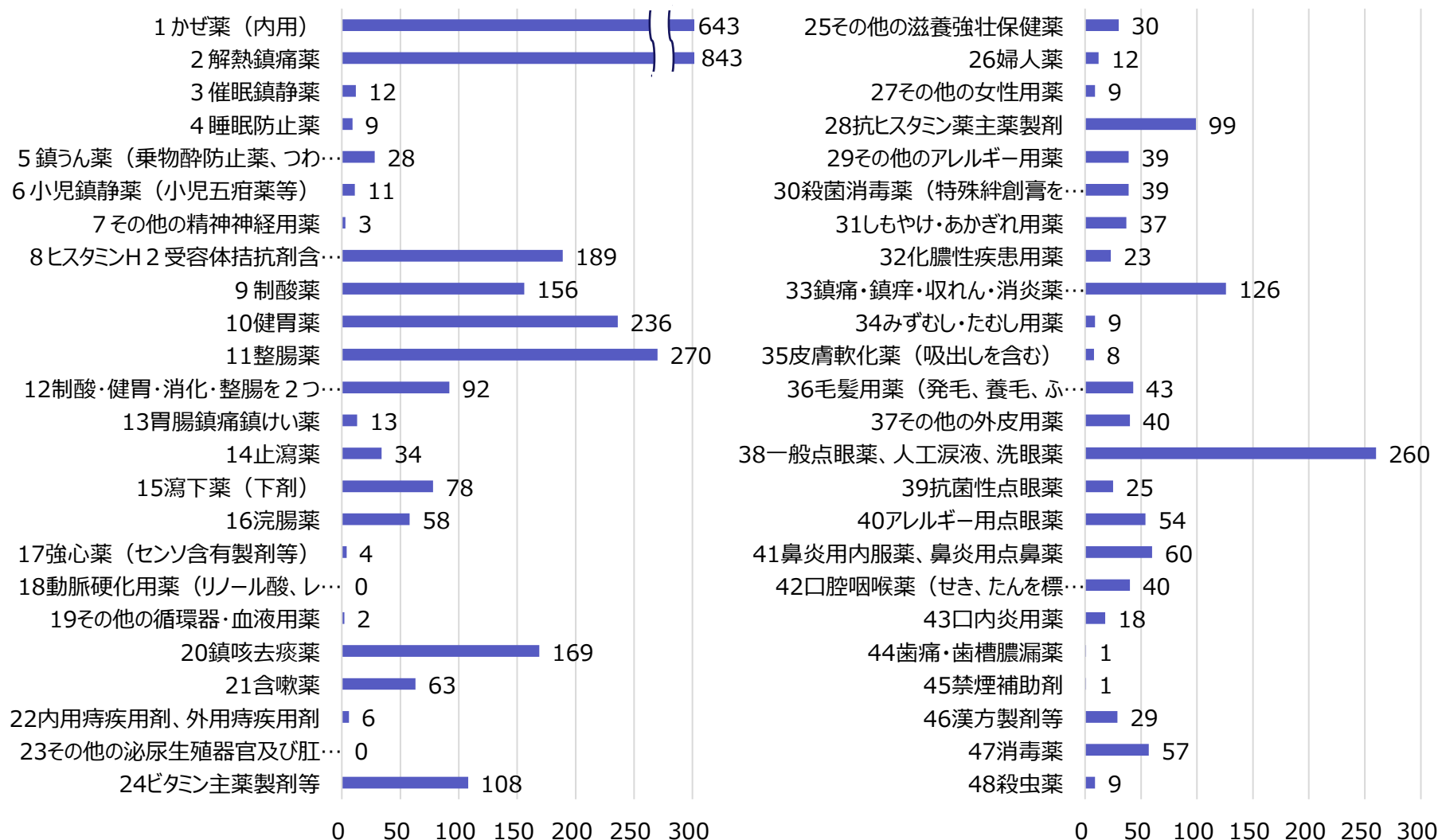
（N=健康サポート薬局の届出がある988薬局）



よく売れるカテゴリー

■「基本的な48薬効群」のうちよく売れるカテゴリー 5つ選択ください。※金額ではなく販売頻度で捉えてください。販売実績が多い場合は感覚的な回答でも構いません。

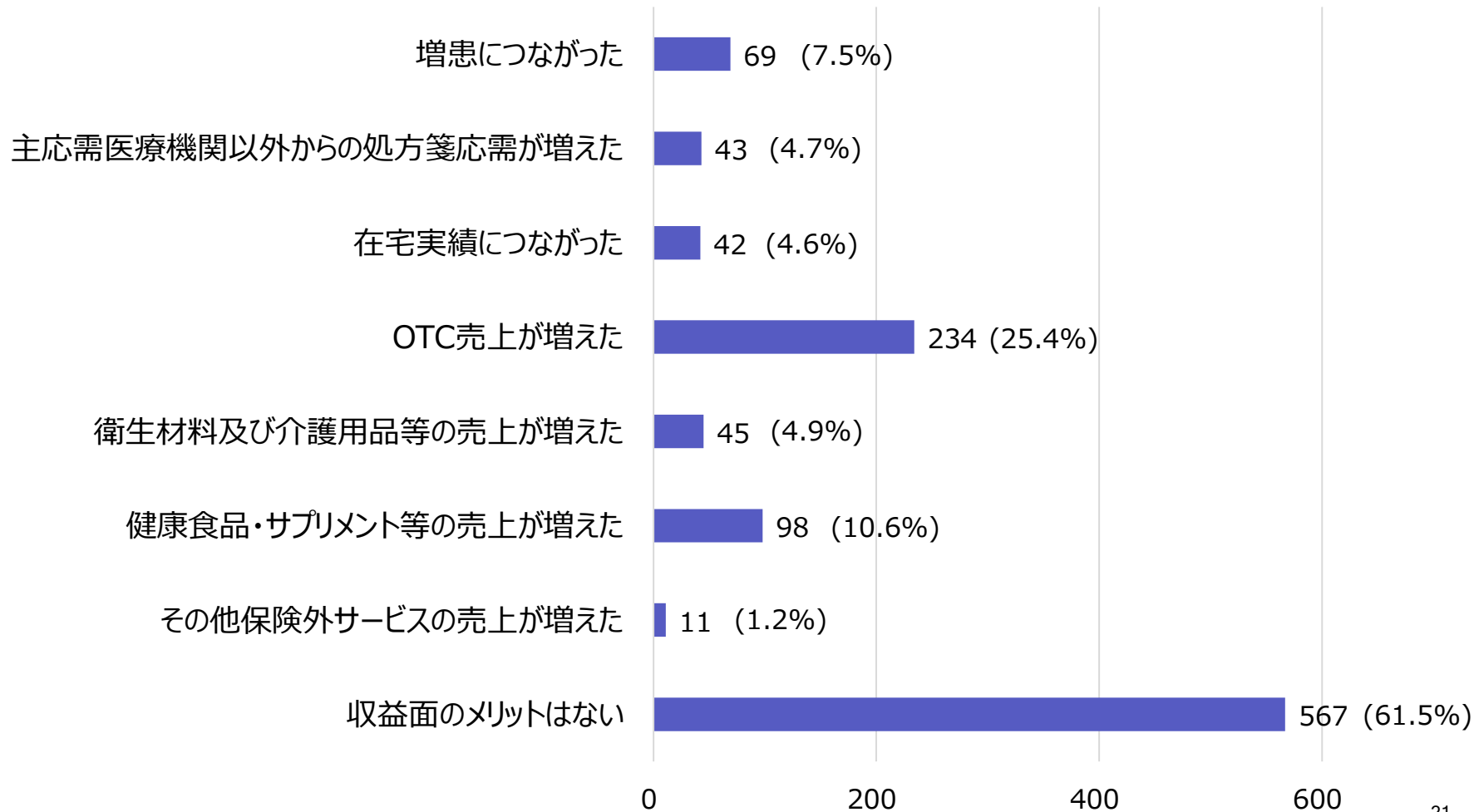
(N=健康サポート薬局の届出がある988薬局)



収益面のメリット

「収益面のメリットがない」の回答が半数以上の61.5%を占める結果となったが、OTC売上の増加や、増患につながっているという回答も一定数得られた。

- 健康サポート薬局であることや、健康サポート機能を発揮することの収益面でのメリットを教えてください。（複数回答可）
（N=健康サポート薬局の届出がある988薬局のうち回答があった922薬局）



収益面のメリット 具体例

- 収益面でのメリットについて、具体的にどのような状況でどの程度、収益に貢献しているか教えてください。（フリーコメント 任意回答）

OTC売上の増加（32件）

- OTC売上が1.5倍程度増えた
- 幅広いOTC商品を取り扱うことで、セルフメディケーションにおけるOTC販売の選択肢が増え、収益増加に繋がったと考えられる
- OTCの取扱い商品が増えたことで、来局される患者ニーズにも対応しやすくなった。金額的には月4～5,000円程度
- 健康相談に応じる事で、OTC商品の販売につながる
- 骨密度測定をおこない、エクオール製剤の売上が上がった
- 定期的な市民講座の開催により、関連商品の売上アップにつながった
- 講習を受けることで研修修了薬剤師から患者への健康相談の対応スキルが向上し、患者も納得される機会が増えた。そのため、薬剤師が提案した方法や患者にあった市販薬の受託が多くなった
- 医療用の鎮咳薬が出荷調整のため処方される頻度が減ったことで、鎮咳薬などの風邪薬を買い求める方が増え、月に10万円前後利益が増えてると思われる
- 病院受診の時間が確保できない方にOTCを紹介することで売上に繋がっている
- 外国人旅行者が増え、総合感冒薬や鎮痛薬の売上が伸びている

増患（14件）

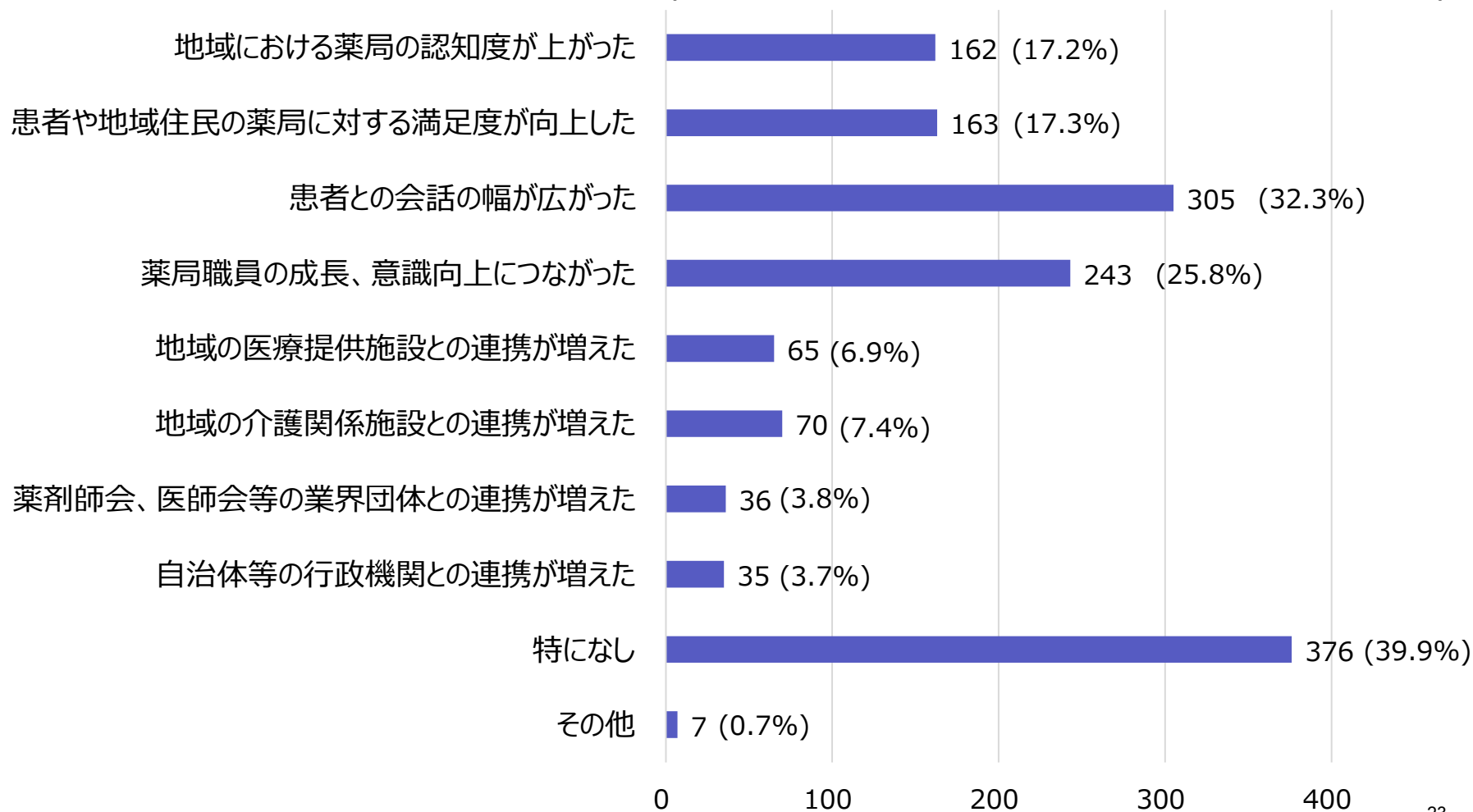
- 薬局の認知度が上がり処方箋獲得が増える考える
- 処方箋枚数が少し増えた
- 広域処方箋を持参していただけるようになった
- 在宅患者の紹介が増えた
- 在宅へつなげた患者がおり、月に1万円程度の売上アップ
- サプリメントの相談が主だが、処方箋がなくても薬局に来局していただける場合が増えた
- かかりつけの患者がつくことで面での処方の枚数が増えたことと、話の中で市販の商品が勧められる場面が通常よりは多く得られていると感じる

収益面以外のメリット

収益面以外のメリットは「特になし」が最も多かったが、「患者との会話の幅が広がった」「地域における薬局の認知度、満足度が向上した」といった回答もみられ、健康サポート機能を発揮している薬局は一定数あるという実態が見えた。

■ 健康サポート薬局であることや、健康サポート機能を発揮することの収益面以外のメリットを教えてください。（複数回答可）

（N＝健康サポート薬局の届出がある988薬局のうち回答があった943薬局）



収益面以外のメリット 具体例

- 収益面以外のメリットの中で印象に残っている具体的な事例があれば教えてください。また「その他」を選択された方は具体的な内容を教えてください。（フリーコメント 任意回答）

地域における認知度向上（20件）

- 肌感覚ではあるが、何か連携の話がある際に、優先的に候補には上がってきやすいのではないと思う
- 地域住民がOTC薬を購入し来局されるようになった
- 風邪薬の対応が増え、感謝されることが増えた
- 健康相談会、測定会を待ち望む声が多くなった
- 処方箋なしでも来局する人（お菓子を買うとか相談とか）が増えた
- 健康相談会などで普段薬局を利用されない方の健康増進への寄与。未病の方に対しての予防医療への意識アップ
- 地域の経済新聞社の取材を受け、雑誌に載せていただき、購買者の認知度UPに繋がった
- 行政各所より相談事項が増えた

職員の成長、患者満足度向上（24件）

- 各サポート薬剤師の知識が増えることで、地域の受け皿などの紹介ができた
- 患者からの質問・会話が aumentato ように感じる
- スタッフの意識が向上した
- 知識が向上したことが、かかりつけ患者との会話に有益だった
- 新人薬剤師の勉強ツールとして利用できた
- 健康フェアの開催で、いつもと違う会話ができ、患者もビックリされていた
- 病院が閉まっている年末年始も風邪で困っていたらいつでも相談できると薬局に対する満足が向上した
- 調剤薬局でも処方箋以外のOTC薬が購入できるので喜ばれた。また、処方薬との飲み合わせもすぐ確認できるのでありがたいと言っていた

課題や要望事項

健康サポート薬局の認知度向上や、より機能を発揮するために、他の薬局と差別化できるような機能付加や、広報施策を求めるコメントが見られた。

■ 健康サポート薬局に係る特出すべき課題や要望事項があれば教えてください。（フリーコメント 任意回答）

取得・維持が困難、それに対するメリットの小ささ・差別化要因のなさ（49件）

- 認定される手間の割にはメリットが少ない
- 診療報酬に反映されておらず、住民への周知も不十分。現場の負担を増やすだけなので、やる意義を感じない
- 現行の制度であると患者、薬局共に特段の有益性は見出せない
- OTCを取り揃えてもその地域の患者層のニーズに合わない和不動在庫となってしまう廃棄につながっている。また健康サポート薬局となっても増患など直接的なメリットに結びつきにくいいため要件が多いことに対して割に合わないと感じてしまう
- OTC品目数の多さ及びそれを配置する場所の確保、届出書類が複雑、在庫過多となり廃棄が増える中で登録を行うメリットが少ない
- 人員が不足している中で、条件を満たした薬剤師が、開局時間全てにおいて常駐していなければならないとの条件を満たすのが大変。せめて1名いたら良いというように条件を緩和してほしい
- 収益に繋がらないが業務負担は確実に増すため、薬局の認知度増や地域貢献等の間接的なメリットだけでなく直接的なインセンティブが必要と思われる。もしくは健康サポート薬局だけに許された独占業務的なものが必要と考えている
- 地域連携薬局との違いがあまりない
- 地域連携薬局ではコロナ対応でラゲブリオの供給が優先されることがあったが、健康サポート薬局ではメリットに繋がるようなことがなかった
- もっと機能的な部分を示してほしい。本来の健康サポートの定義は何なのかを考えていただきたい
- インフルエンザ・新型コロナウイルス感染の検査キットや緊急避妊薬を必ず在庫しているなど、国民にとってわかりやすいメリットがあればよいかもしれないが、まだまだ健康サポート薬局の利便性、認知度が低いと思われる。健康サポート薬局でなくても、ドラッグストアであればある程度の市販薬を買うことができるため差別化できていない。

課題や要望事項②

■ 健康サポート薬局に係る特出すべき課題や要望事項があれば教えてください。（フリーコメント 任意回答）

認知度の低さ（23件）

- 一般的に認知度が低いと思われる。健康サポート薬局だから何というような状況とを感じる
- 健康サポート薬局を標榜してもほとんどの利用者には需要がないし興味すらない
- まだ健康サポート薬局であることを知らない患者、利用者が多いので積極的にアピールしていくことが課題だと考えます
- 認知度が低すぎて宣伝にもならないし標榜しても誰も理解できないのに取得条件は厳しい上、働き方改革の時代にも逆行する

その他（24件）

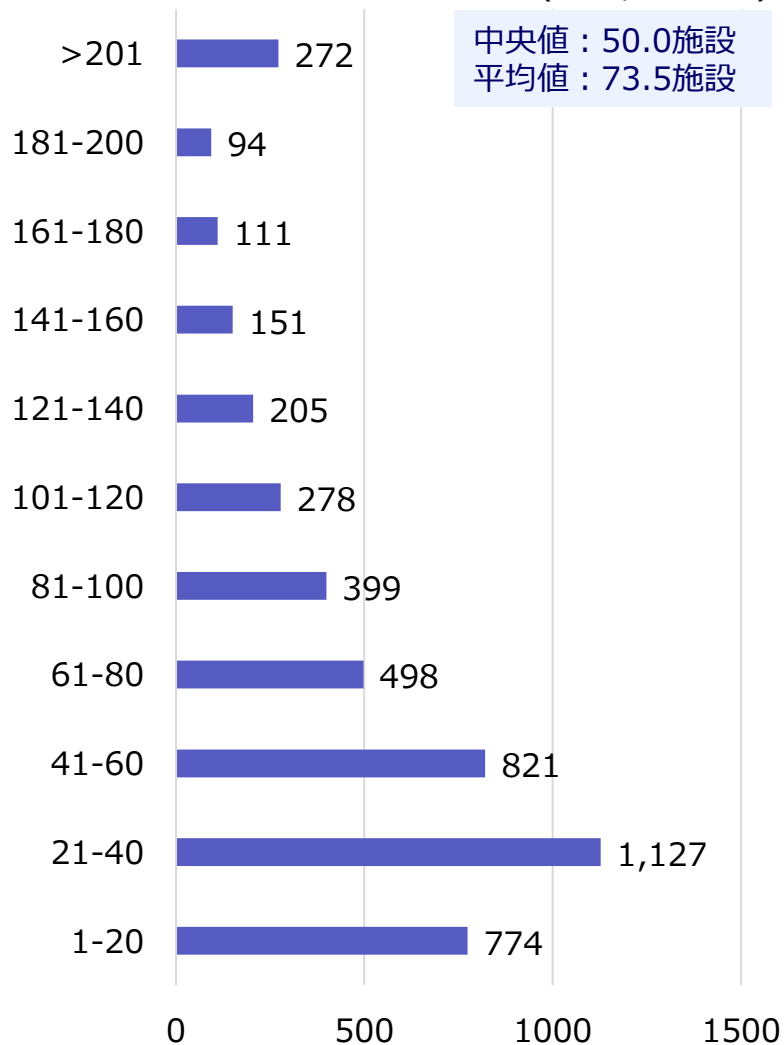
- 最低限の市販薬等の取り扱いの必要性も分かるが、近隣にドラッグストア等が多数あり、スーパー等でもガーゼなどの取り扱いが一般的な状況で、あまり取り扱いをする必要性が感じられなく、期限切れによる廃棄が多すぎる。取り扱い必要品目を現状に即した内容に見直してほしい。緊急薬以外は取り寄せが可能な体制を取れば良いと考える
- 48薬効群がわかりにくく、実際に違うものもあるので確認が大変。また、すべてに需要があるとは思えない
- 基本的な48薬効群の品目数を減らして欲しい。近隣に調剤併設型のドラッグストアもあり、期限切れのリスクが高い
- 申請時に項目に沿って必要書類を用意したが、窓口の担当者によってその書類の内容について求めることが異なり何度も申請をすることになりかなり大変でした
- 土日開催の研修枠が埋まるのが早すぎる

面処方箋に係る実態

応需医療機関数

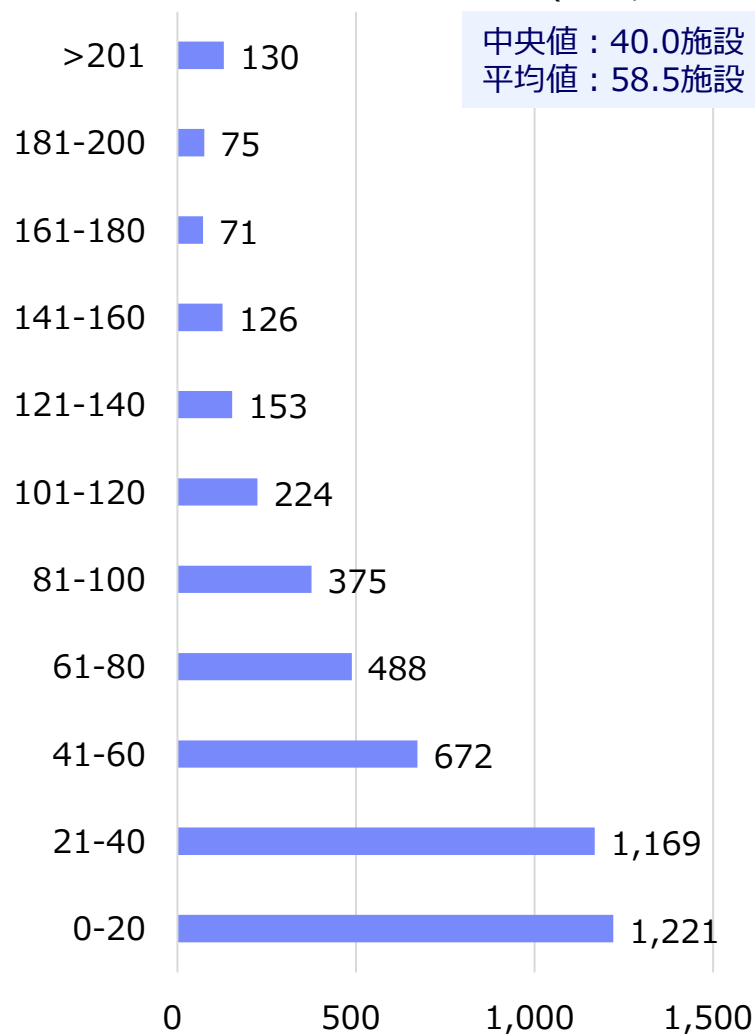
- 2023年11月の処方箋受付の中で、応需した全医療機関数を教えてください。（半角整数 単位:医療機関）※同一医療機関の診療科違いは合わせて一つとカウントください。おおよその数でも構いません。

(N=4,730薬局)



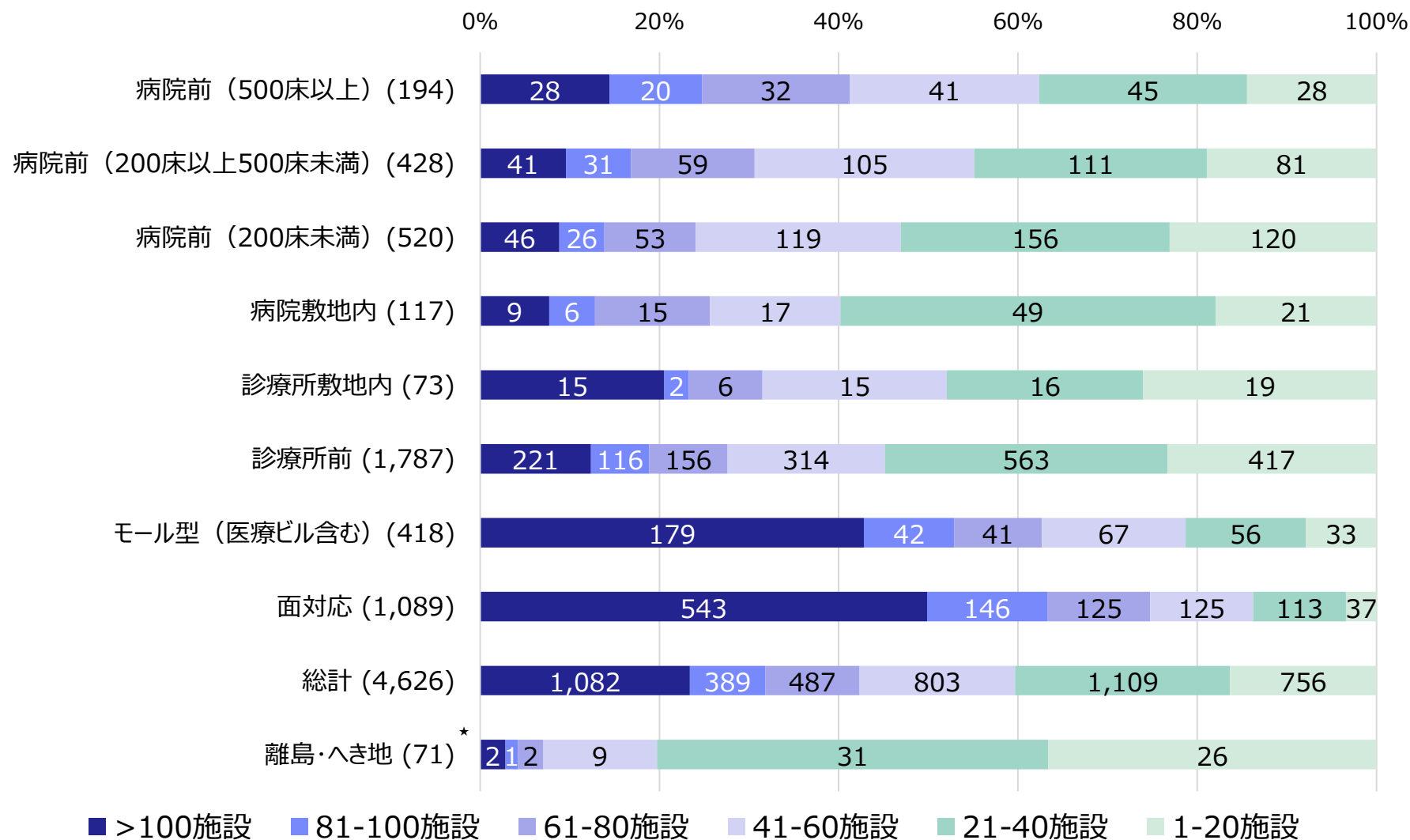
- 2023年11月の処方箋受付の中で、「受付回数が5回以下」の医療機関数を教えてください。（半角整数 単位:医療機関）※おおよその数でも構いません。実績がない場合は「0」と回答ください。

(N=4,704薬局)



全応需医療機関数 × 立地

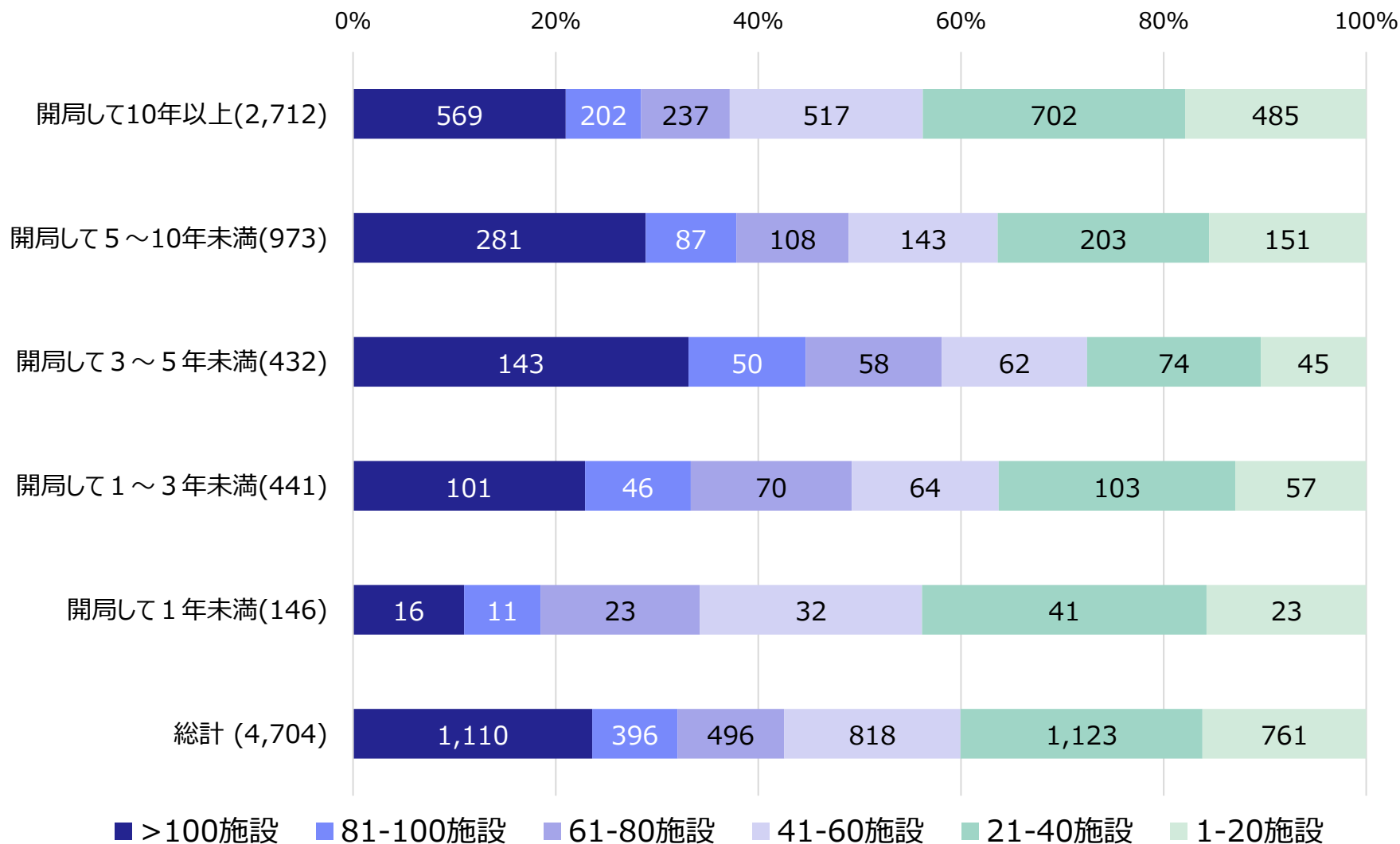
応需医療機関数はモール型及び面対応の薬局で多く、それ以外では大きな差は見られなかった。



▶ * 自局が離島もしくはへき地に所在すると回答した薬局

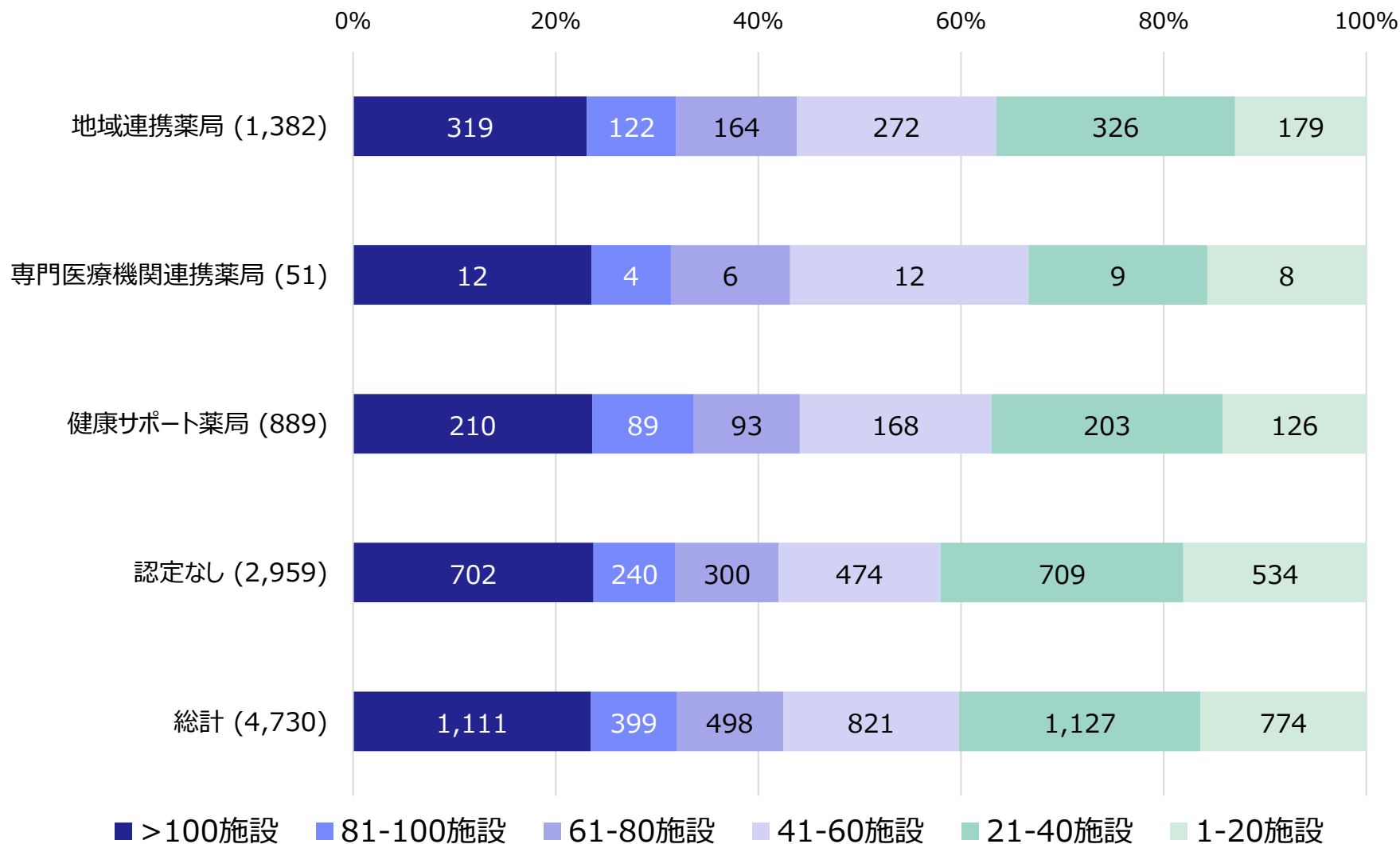
全応需医療機関数 × 開局時期

応需医療機関数は「開局して1年未満」で少なく、それ以外では大きな差は見られなかった。



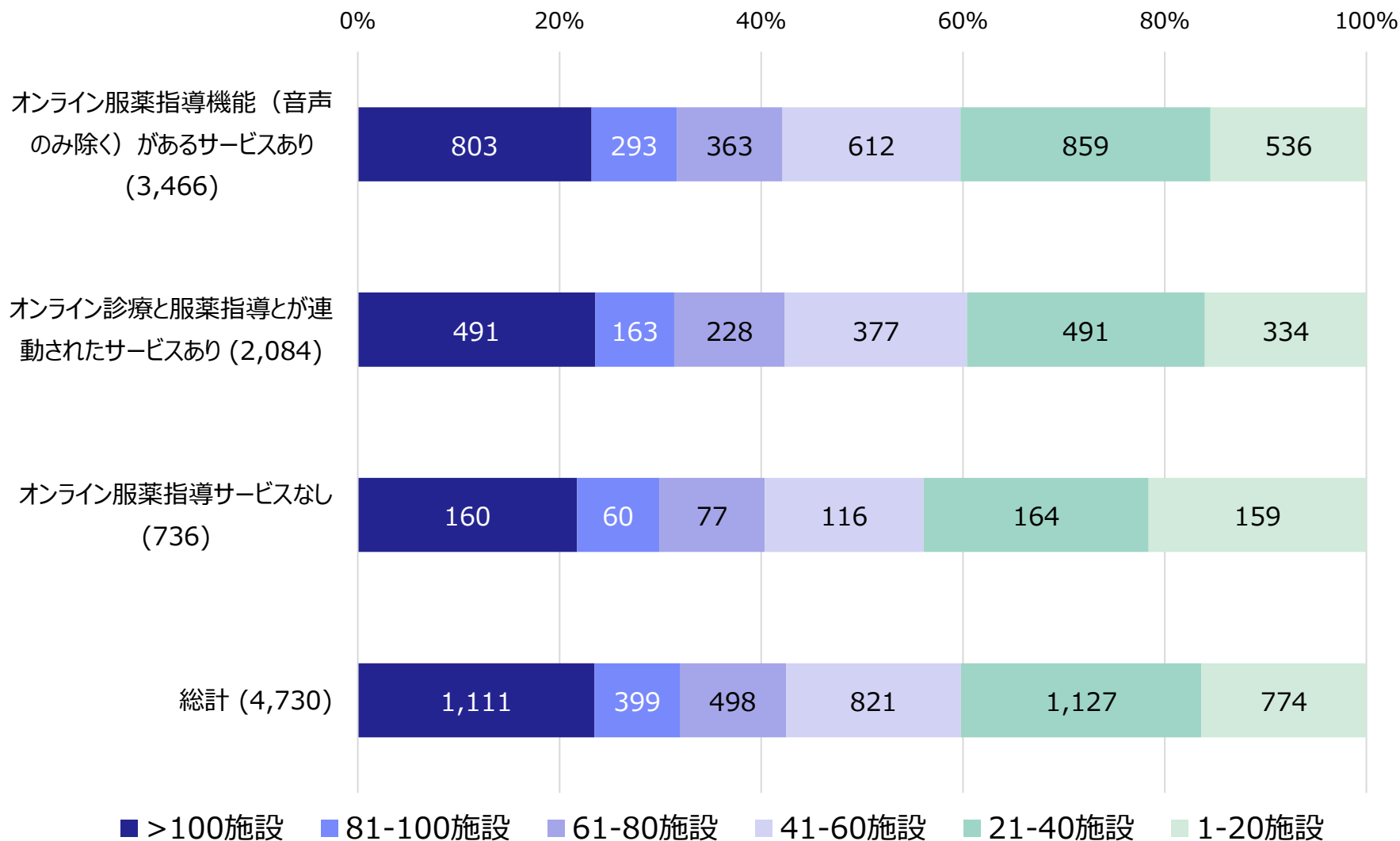
全応需医療機関数 × 認定

応需医療機関数は「認定なし」において、わずかに低い傾向が見られた。



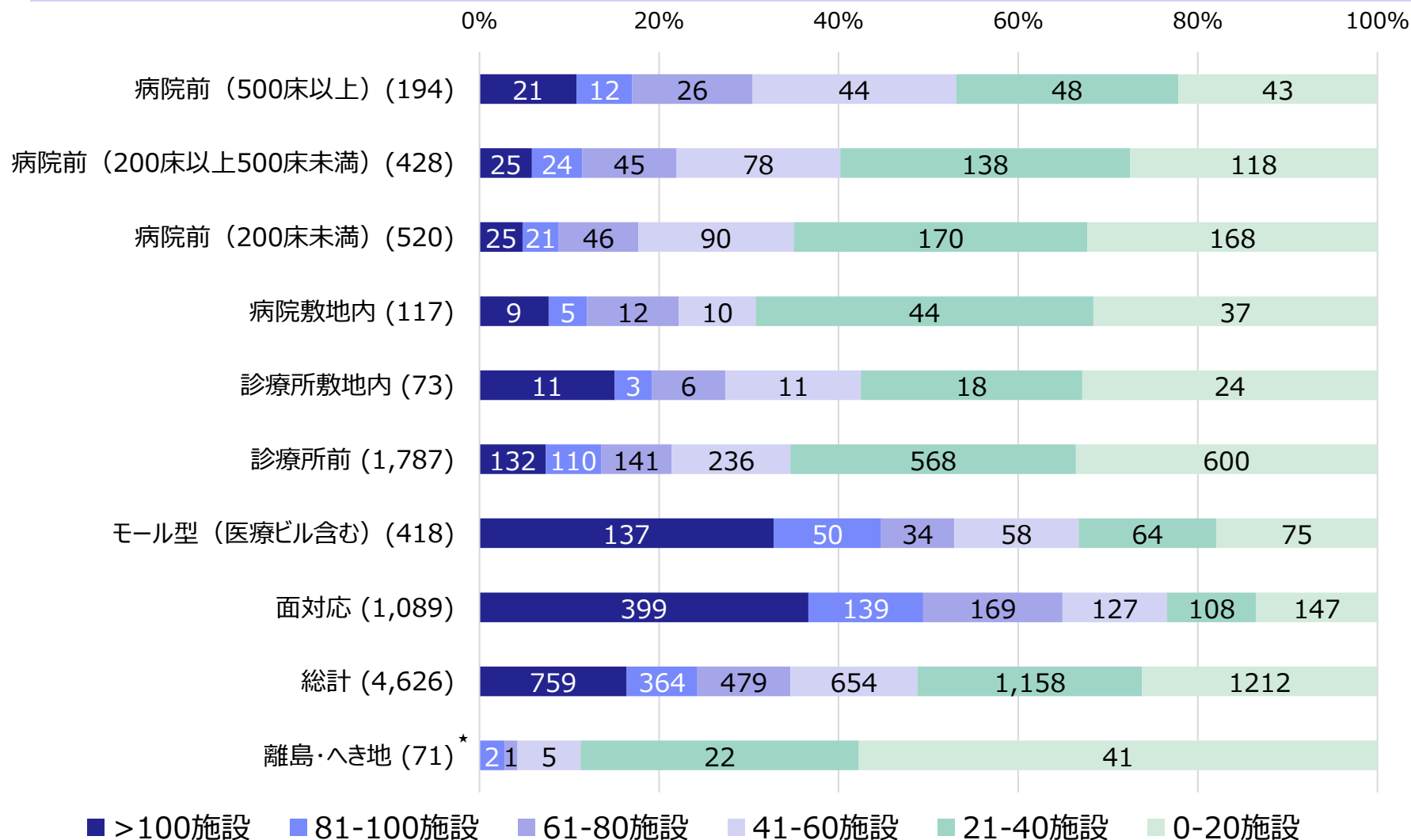
全応需医療機関数 × オンライン服薬指導

応需医療機関数は「オンライン服薬指導サービスなし」において、わずかに低い傾向が見られた。



「受付回数が5回以下」の応需医療機関数 × 立地

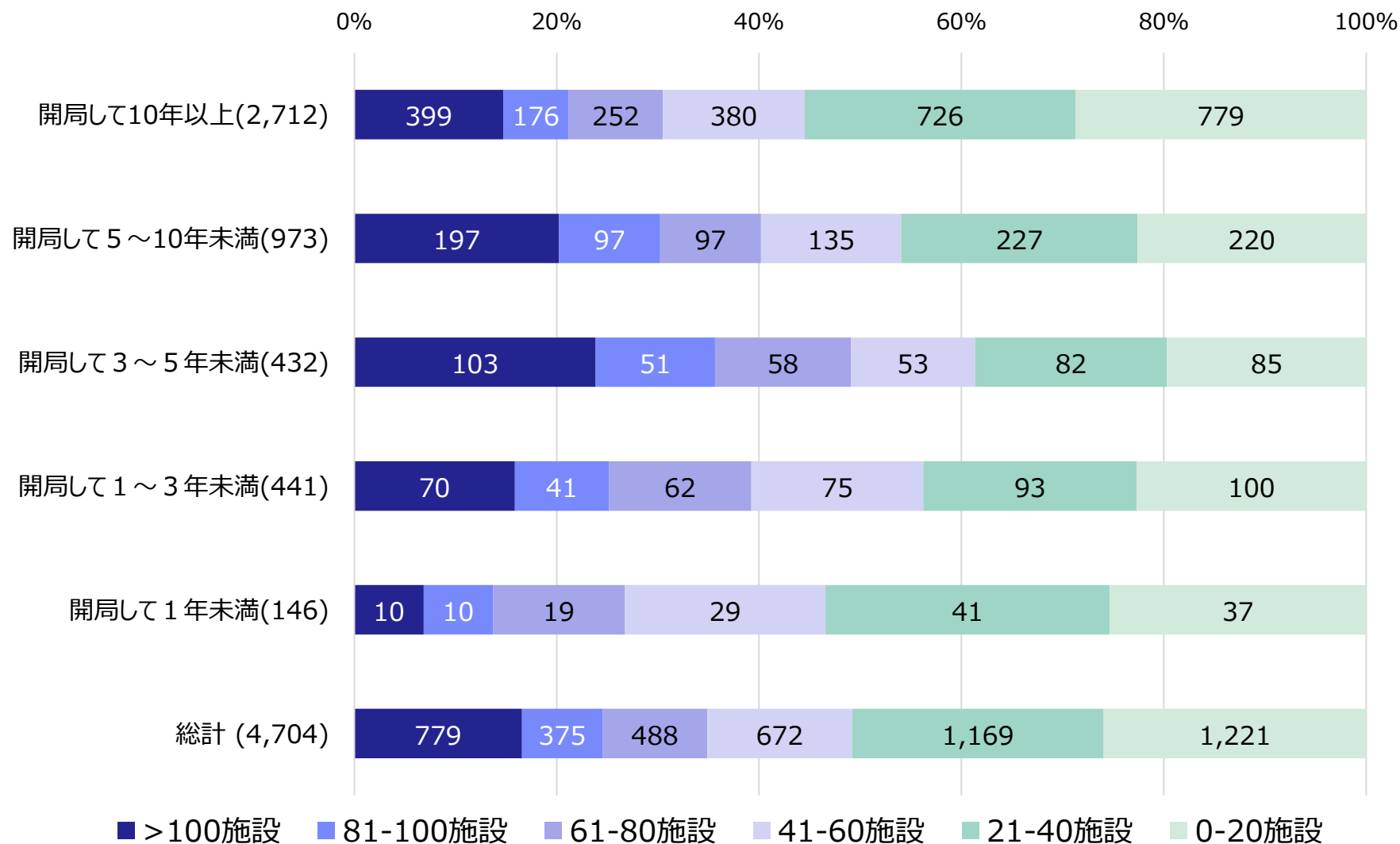
「受付回数が月5回以下」の応需医療機関数はモール型及び面対応の薬局で多く、それ以外では大きな差は見られなかった。



* 自局が離島もしくはへき地に所在すると回答した薬局

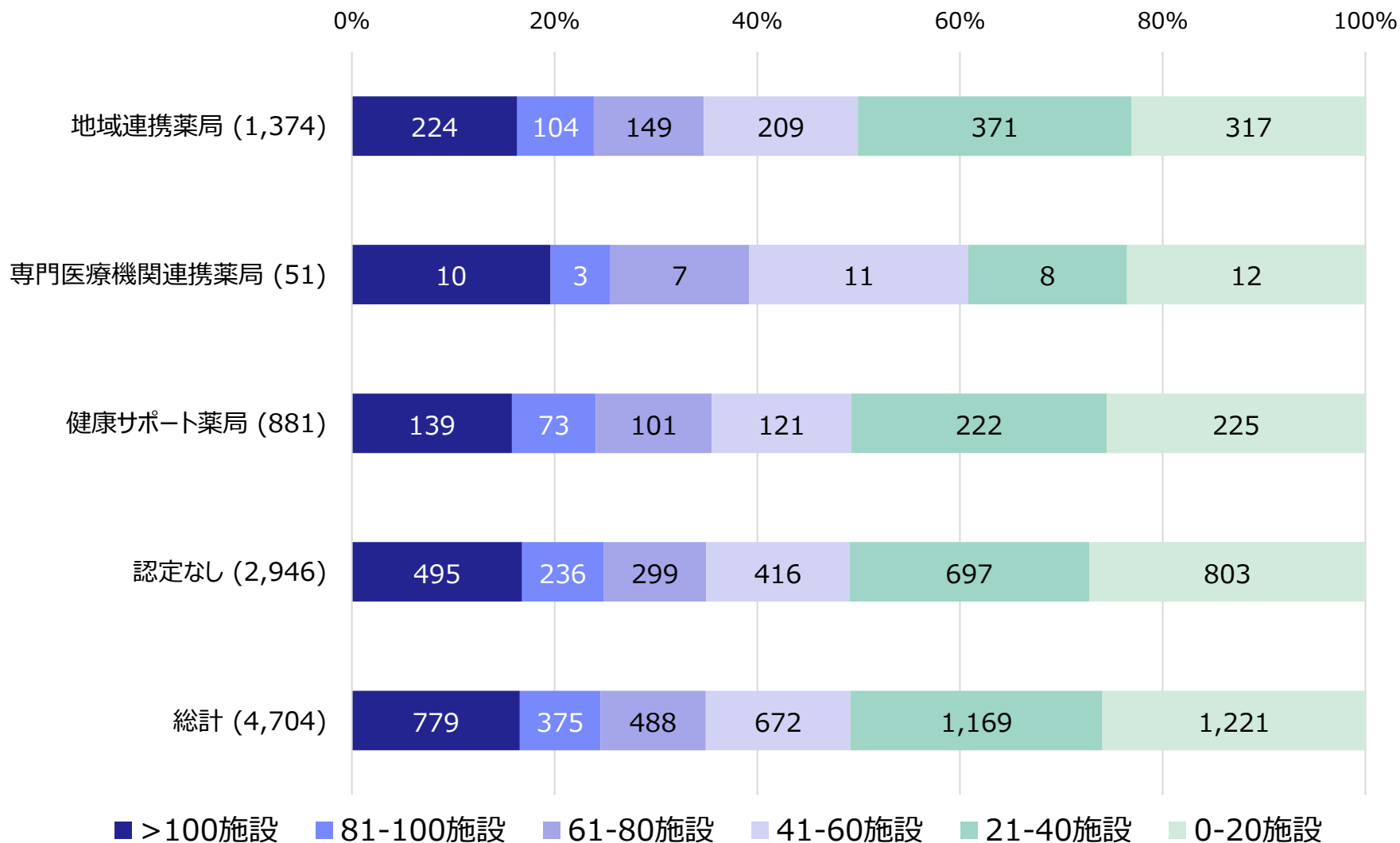
「受付回数が5回以下」の応需医療機関数 × 開局時期

「受付回数が月5回以下」の応需医療機関数は「開局して1年未満」で少なく、それ以外では大きな差は見られなかった。



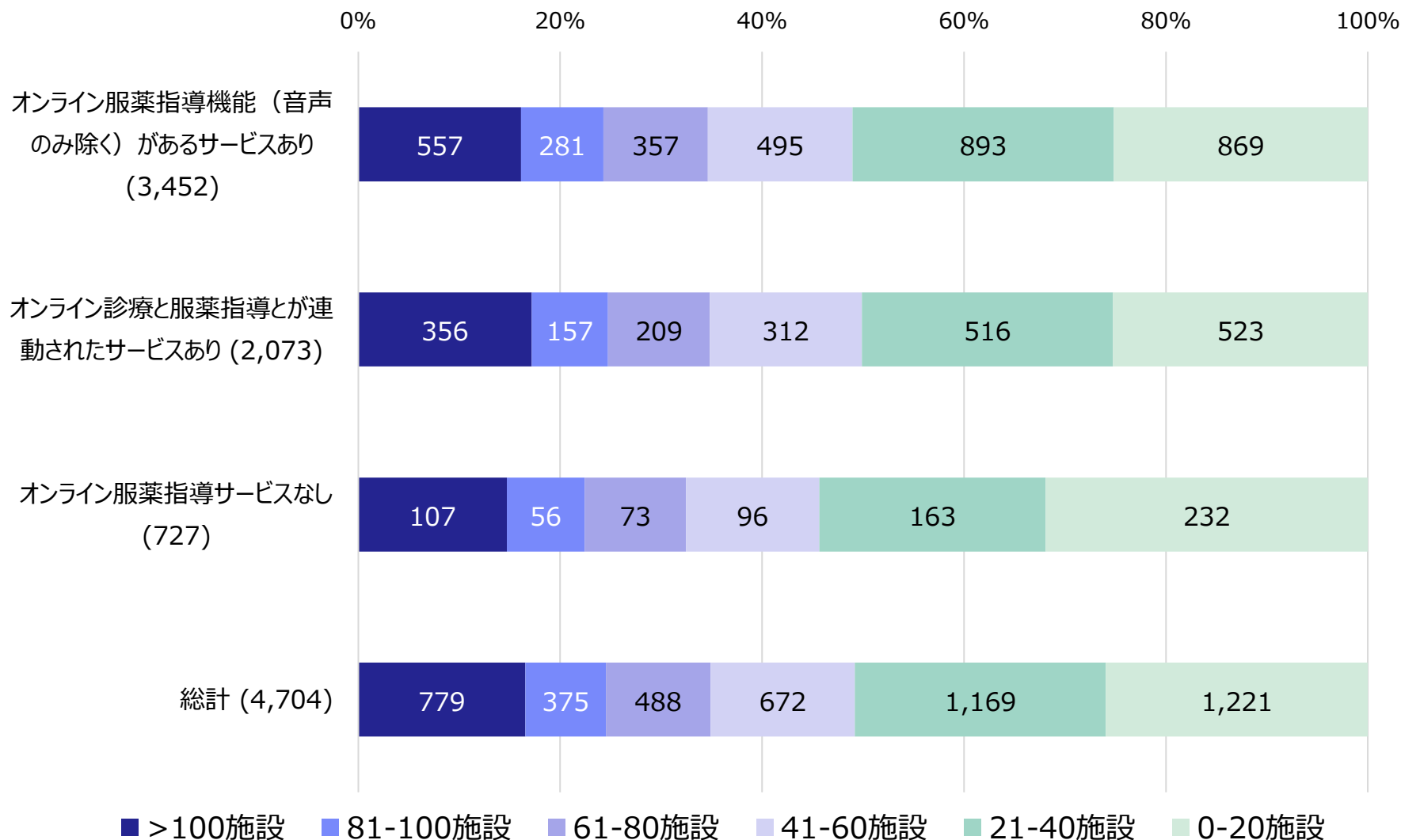
「受付回数が5回以下」の応需医療機関数 × 認定

「受付回数が月5回以下」の応需医療機関数は「認定なし」でわずかに低い傾向が見られた。



「受付回数が5回以下」の応需医療機関数 × オンライン服薬指導

「受付回数が月5回以下」の応需医療機関数は「オンライン服薬指導サービスなし」において、わずかに低い傾向が見られた。

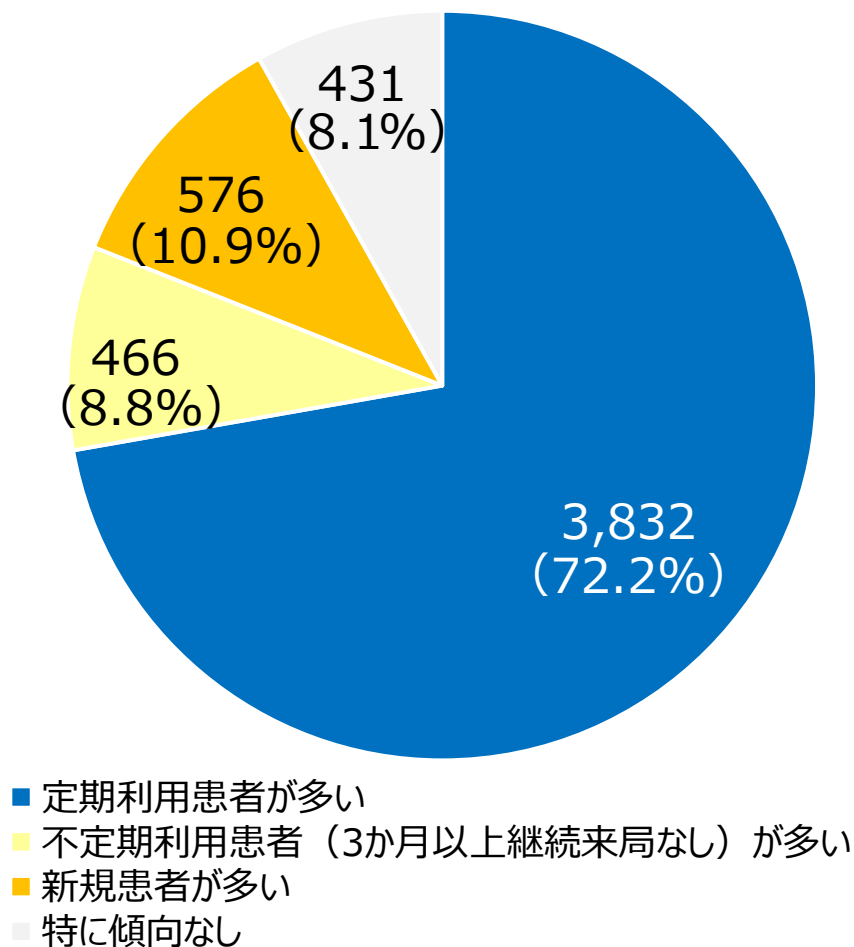


面処方箋を持参される患者の傾向

- 面処方箋を持参される患者は次のうちどのような患者が多いですか？

面処方箋：本調査では「受付回数が月5回以下」となる医療機関の処方箋とします。

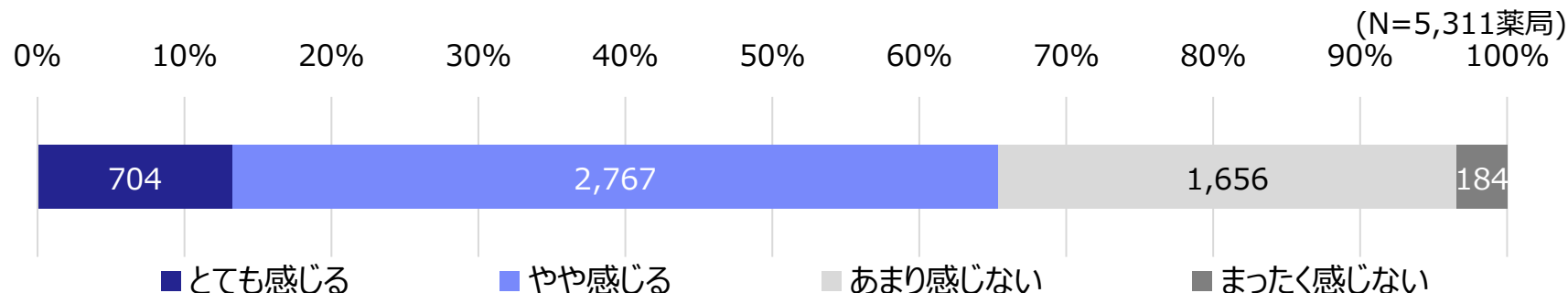
(N=5,305薬局)



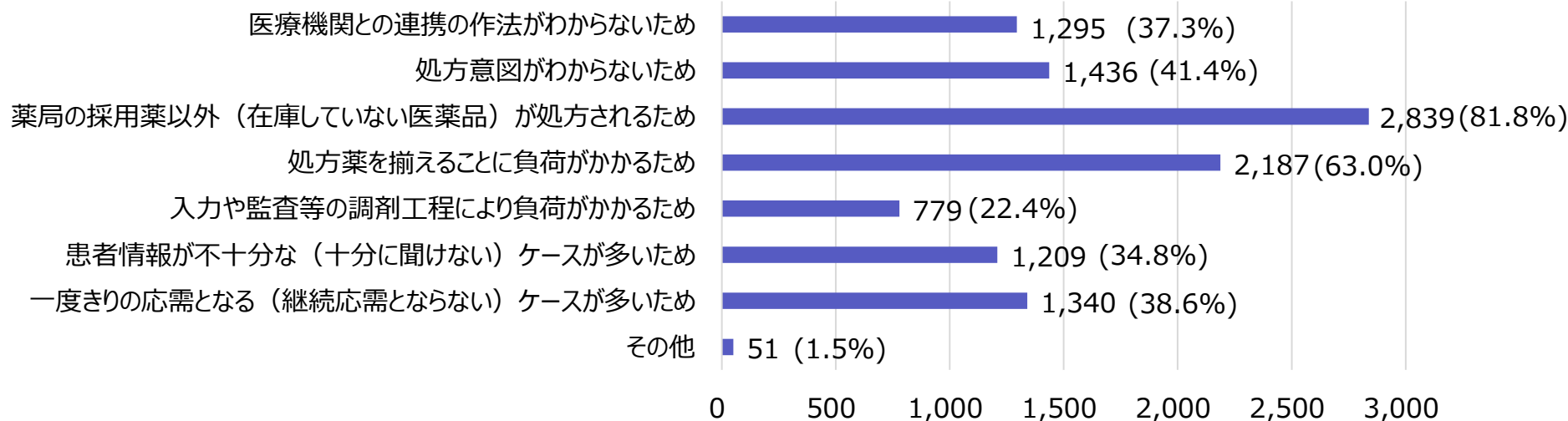
面応需の難しさ

面処方箋を応需した場合に、65.3%は難しさを感じると回答。その理由としては、医薬品在庫、医療機関との連携、患者情報の順で回答数が多く見られた。

■ 面処方箋を応需した場合、それ以外の場合と比べて薬局機能及び薬剤師職能を果たすことに難しさは感じますか？



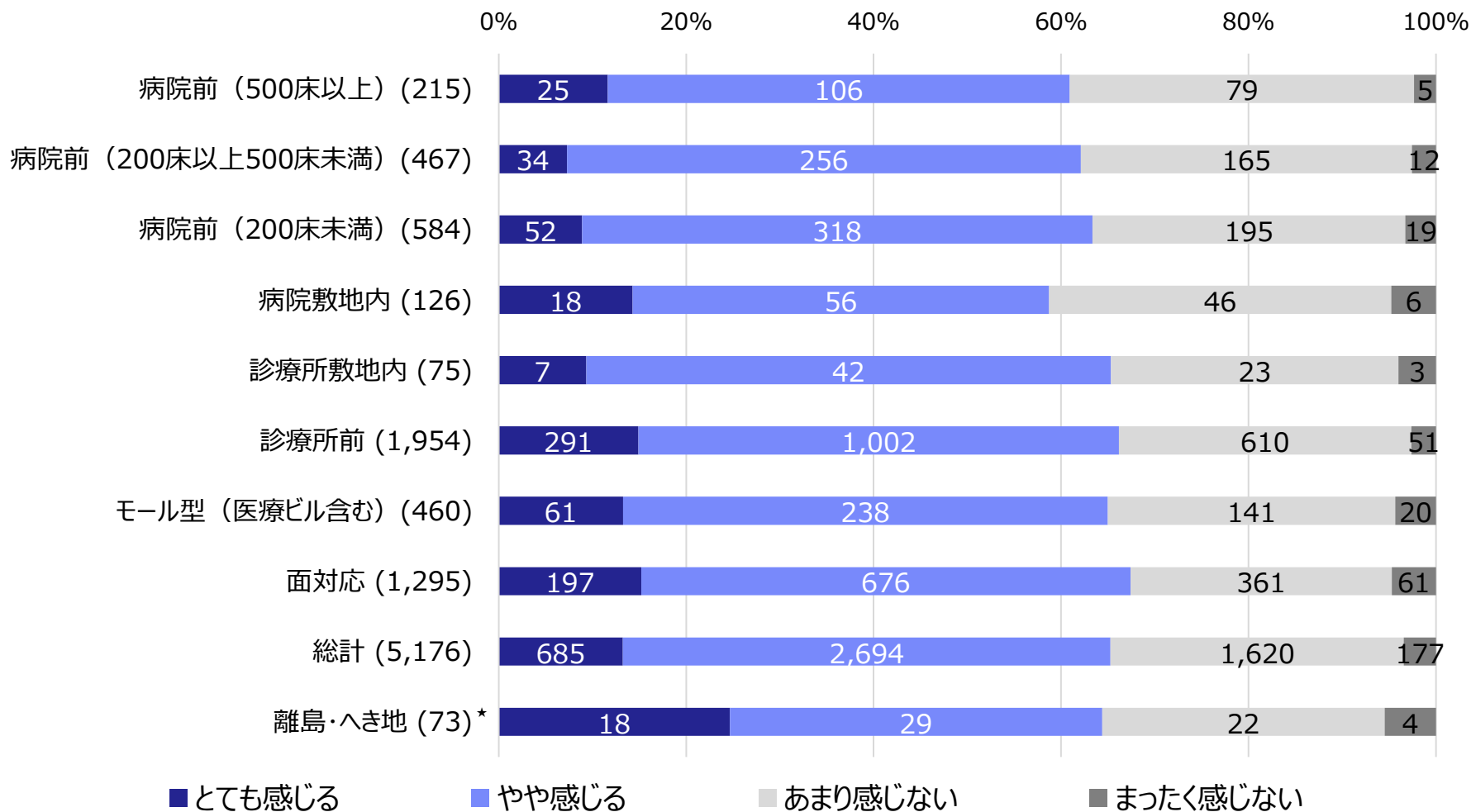
■ 「とても感じる」「やや感じる」と回答した方に伺います。薬局機能及び薬剤師職能を果たすことが難しい理由を教えてください。（複数選択可）
(N=3,471薬局)



面応需の難しさ × 立地

「面応需の難しさ」と「立地」の関係性は特に見られなかった。

■ 面処方箋を応需した場合、それ以外の場合と比べて薬局機能及び薬剤師職能を果たすことに難しさは感じますか？

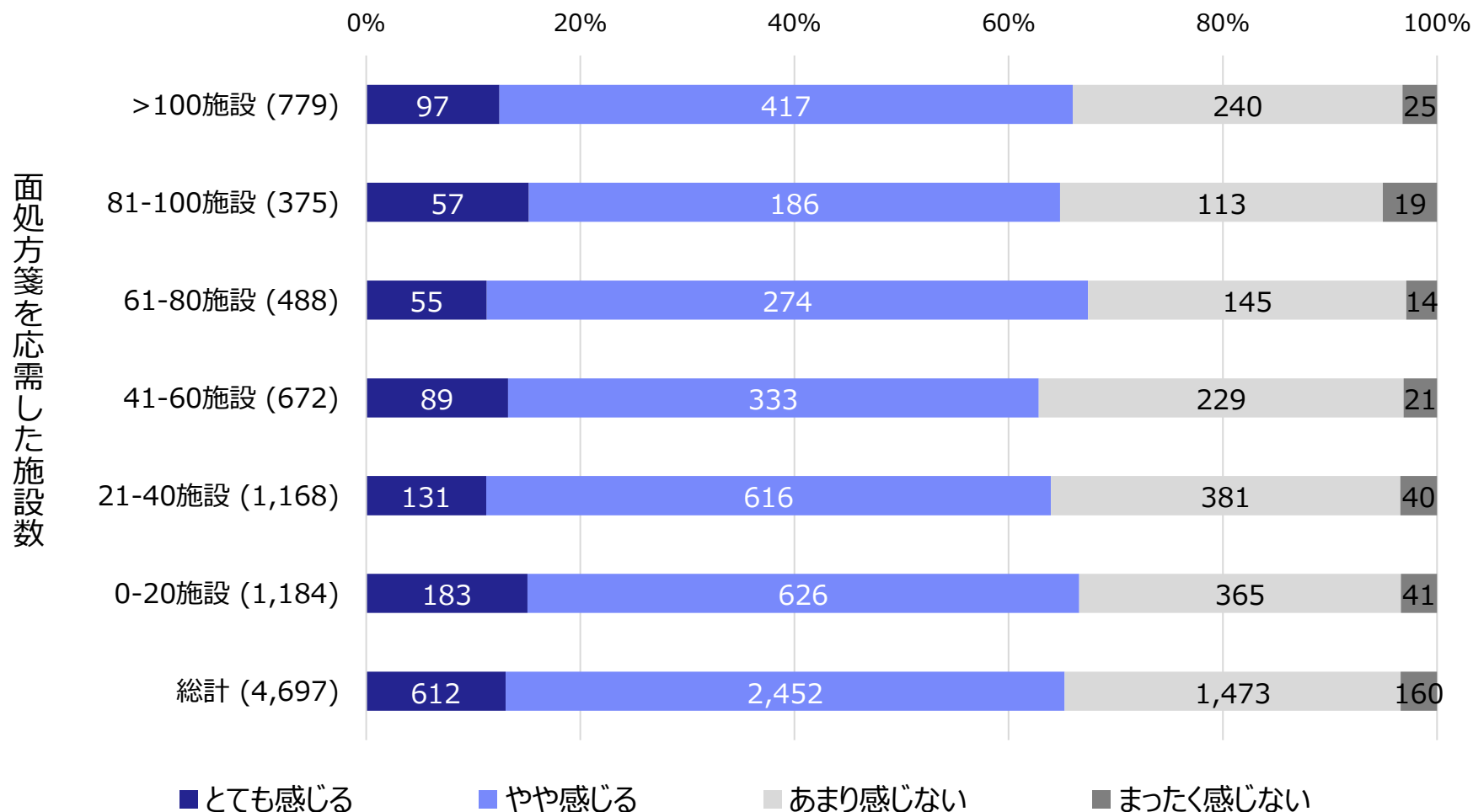


▶ * 自局が離島もしくはへき地に所在すると回答した薬局

面応需の難しさ × 面処方箋を応需した医療機関数

「面応需の難しさ」と「面処方箋を応需した医療機関数」の関係性は特に見られなかった。

■ 面処方箋を応需した場合、それ以外の場合と比べて薬局機能及び薬剤師職能を果たすことに難しさは感じますか？

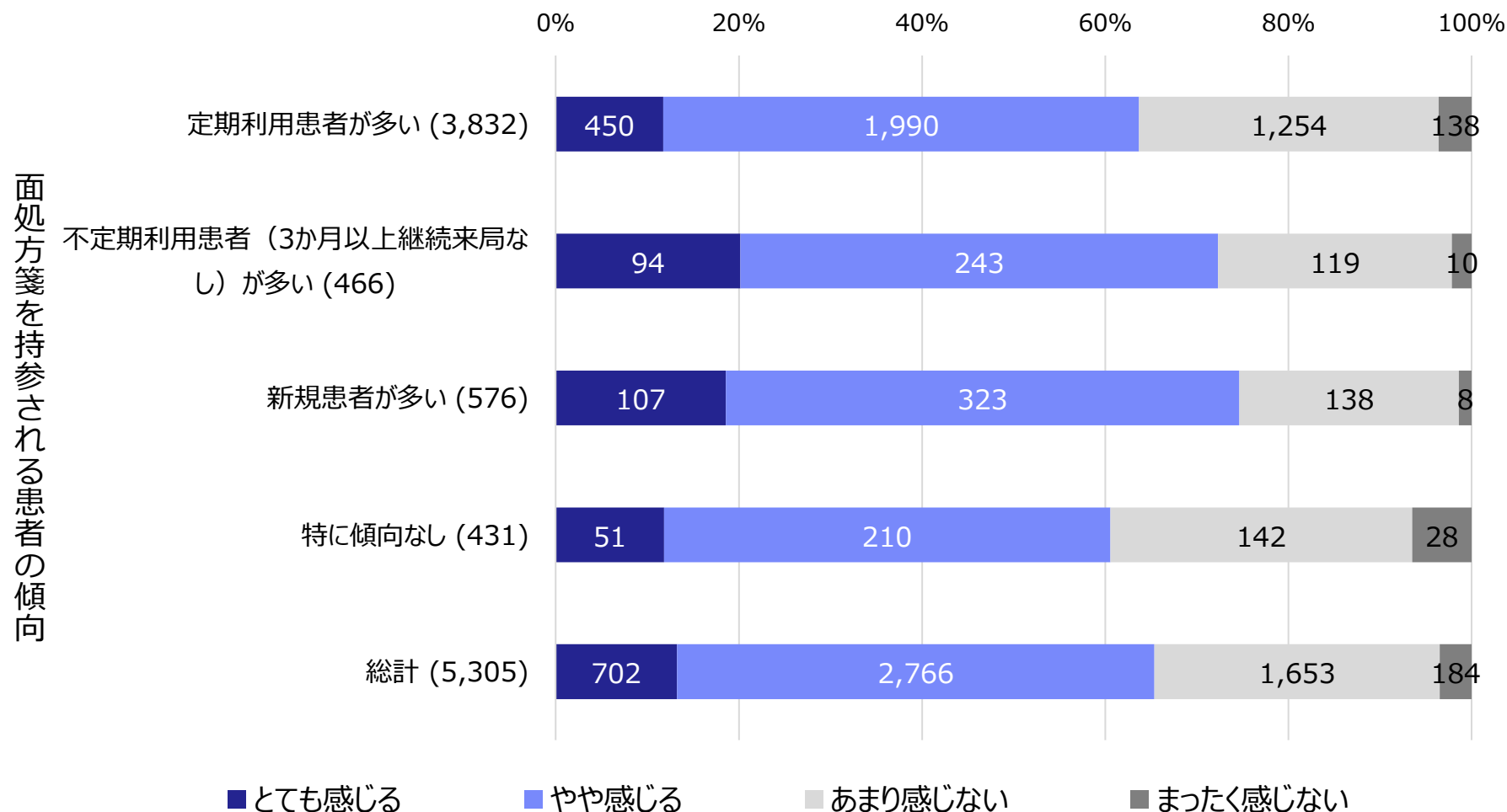


▶ 施設数は2023年11月実績

面処方箋の難しさ × 面処方箋を持参される患者の傾向

「面処方箋を持参される患者の傾向」において、「不定期利用患者が多い」「新規患者が多い」を選択された薬局では、面処方箋を応需した際に難しさを感じると回答した割合が高い傾向であった。

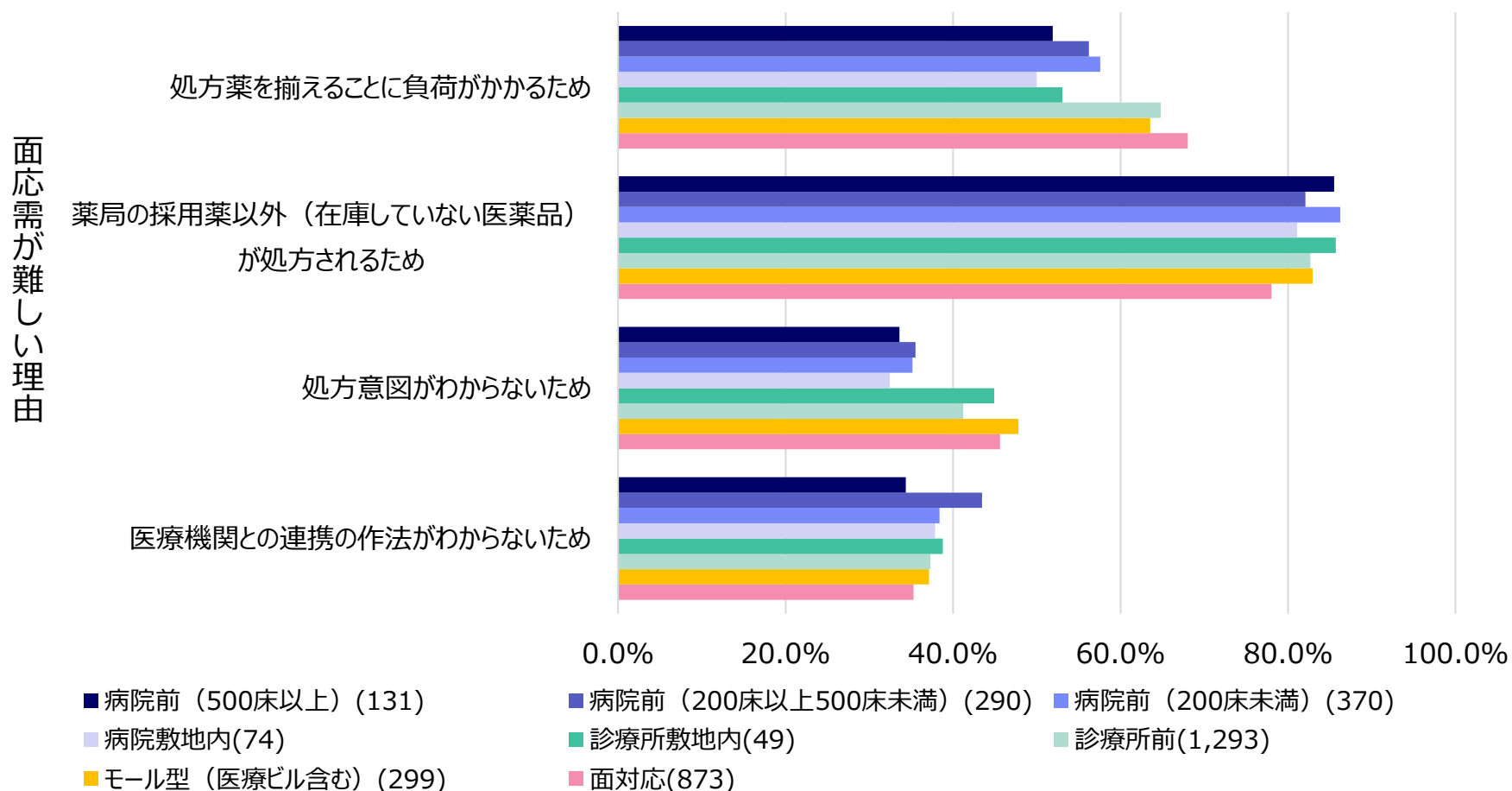
■ 面処方箋を応需した場合、それ以外の場合と比べて薬局機能及び薬剤師職能を果たすことに難しさは感じますか？



面応需が難しい理由 × 立地①

面応需が難しい理由において、「薬局の採用薬以外が処方されるため」の回答と立地の関係性は見られなかったが、「処方意図がわからないため」の回答については、立地によって差が見られた。

- 面処方箋を応需した場合、それ以外の場合と比べて薬局機能及び薬剤師職能を果たすことが難しい理由（難しさを「とても感じる」「やや感じる」と回答した薬局のみ）

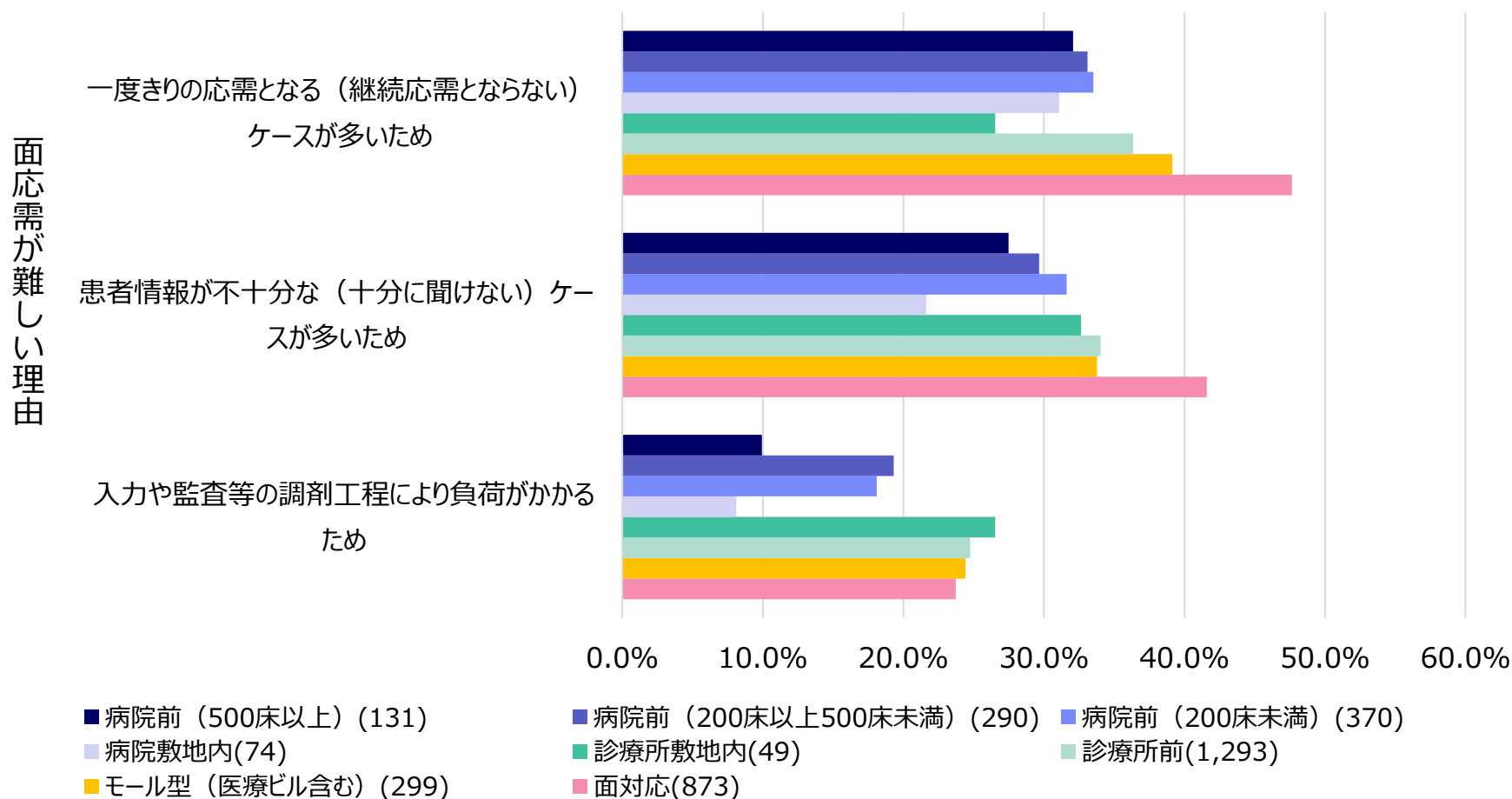


▶ 各立地において、難しさを「とても感じる」「やや感じる」薬局の数を分母とし、各理由を選択した割合をグラフにしている。

面応需が難しい理由 × 立地②

面応需が難しい理由において、「一度きりの応需となるケースが多いため」「患者情報が不十分なケースが多いため」の回答割合は、「面対応」が高い傾向であった。

- 面処方箋を応需した場合、それ以外の場合と比べて薬局機能及び薬剤師職能を果たすことが難しい理由
(難しさを「とても感じる」「やや感じる」と回答した薬局のみ)



▶ 各立地において、難しさを「とても感じる」「やや感じる」薬局の数を分母とし、各理由を選択した割合をグラフにしている。

面応需の難しさ 具体例

困ったエピソードとして処方薬取り揃えや医療機関との連携に関する内容が多く報告されたが、地域の中で、事前に医療機関と薬局とが情報連携を行うことで解決できるであろう内容もみられた。

■ 具体的に困ったエピソードがあれば教えてください。（フリーコメント 任意回答）

処方薬取り揃えの難しさ（69件）

- 出荷調製品かどうかを調べてからでないと応需できない
- 在庫のない医薬品の処方箋で出荷調整や限定出荷だった場合、実績がないと入荷できない扱いになっていると憤りを感じる。面応需であれば限定出荷品が突然必要になることは当然起こることなので配慮してほしい
- 出荷制限が続く昨今、出荷制限中の医薬品は発注履歴がないとまず発注できず、また仮に運良く取り揃えることが出来たとしても、次回以降も継続的に在庫確保することが厳しい
- 出荷調整による新規購入不可薬品の場合が多いため、小分けや手配に人員が割かれる
- 出荷制限のある薬品をそろえることが大変。あちこちの卸への電話対応となるため人が取られて業務が滞ることがある
- 高額薬が少量処方されたが、それ以降の来局はなく廃棄金額の方が大きくなった
- 土曜日の午後來局されて在庫がない薬がでてしまい、卸もやっていなく、土曜日午後は営業している薬局がほとんどないため小分けでも薬が入手できず、そろえるのに週明けになってしまった事があった
- 年末など、長期休業の前到来局された場合、連休明けのお渡しになることを説明し、他局を利用いただくことが多い
- 出荷調整中で入荷未定の医薬品を処方かつ変更不可記載。患者了承を取り同効薬への変更を依頼するも門前が持っているので門前に戻るように処方医より指示。薬局より片道約1時間の病院だったため患者に多大な負担を強いた
- 入荷困難な薬の処方があった場合、受入頻度の高い病院近くの薬局にしか在庫がなく戻ってもらったりすることがあった。患者からもお叱りを受け辛かった
- 土曜日などに処方箋を応需した場合は医薬品卸に在庫の有無を確認できず、処方箋の使用期間もあることから対応が慎重にならざるを得ないことが多い
- 門前薬局にしか入荷しない出荷調整医薬品が多数存在すること。医師に致し方なく同種同効薬への変更をお願いすると門前薬局にはあるので変更しないと言われる
- 一度きりの来局や不定期来局のケースが多く、デットストックの発生だけでなく、在庫として発注しておくべきかその要否に困ることが多い

面応需の難しさ 具体例②

■ 具体的に困ったエピソードがあれば教えてください。（フリーコメント 任意回答）

医療機関との連携に係る難しさ（25件）

- 疑義照会なども含め、医療機関との連絡方法が病院ごとに異なる
- 総合病院等は、疑義照会がFAXのため確認に時間を要する
- 処方日に来局されないことがあるため病院の担当医が休みで照会に時間がかかる、もしくは、できない場合がある。曜日によっては休診の為全く連絡手段がなくなる
- 疑義照会の必要がある薬が出た時に、診察時間外で確認が取れず、翌週まで待ってもらうしかなかった
- 限定出荷医薬品の処方変更が不可であったり、病院の開院時間外だとお渡しに時間がかかり、患者の負担が増えてしまう
- 用法用量に疑義があり問い合わせするも、時間外のため処方医に確認が取れず。翌日朝に電話したところ、「自分はその量でいつも出している。こんなことで電話を掛けてくるな」と処方医よりクレーム
- 病院近隣薬局と比較され不満を言われることも多い
- 手書き処方せんで約束処方の略語のみ記載という明らかな門前薬局対応の記載だったため疑義照会。「いつもの薬局ならわかるからそちらに行くように伝えて」という返答
- 特に大きな病院だと、添付文書と用法・投与間隔などが異なる見慣れない処方が出ることがある。疑義照会をしても、医師と直接話すことも難しく、処方医の意図が分からない事がある

患者情報取得の難しさ（8件）

- 門前薬局の待ち時間が長いので門前以外の薬局に行く方が多く、せかされたり、情報を十分に聞こうとするとそれなら次回から他に行くと言われてしまうことがある
- 検査値などの情報がない
- 新規患者で、お薬手帳なし。大まかに、血圧の薬・・・や白い錠剤など、曖昧な状況で、医師にも薬の併用を伝えていない方の来局。既往疾患も、現疾患も、把握ができていない方など、併用確認、禁忌疾患がないかも確認できないが、再来局もしていただけないので、電話で帰宅後に確認をお願いするが、断られてしまう事や、連絡がつかなくなる事が多々ある

その他（11件）

- 今までもらわれていたGEの会社が同じにならないことや、一包化希望で印字の違いなどの説明に神経を使っている
- 関りの少ない診療科の知識不足（がん治療など）、取り扱ったことのない薬剤の知識不足

調査内容

調査内容

ー調査概要ー

- 目的：薬局サービス及び多職種連携の実態と課題等に関する調査研究
- 対象：1 薬局 1 回答 回答所要時間約 20 分
- 内容：
 - ・ 薬局機能等に係る実態（所在地、立地、営業時間、24 時間対応、認定有無、ICT サービス、人員体制等）：16 問
 - ・ 薬局の実績：11 問（マイナ保険証受付、電子処方箋、リフィル、オンライン服薬指導等の実績）
 - ・ 医療提供施設（病院の地域連携室、他薬局等）や介護関係施設（訪問看護ステーション、地域包括支援センター等）等との連携の実態：12 問
 - ・ 健康サポート薬局のメリットと課題等：7 問 ※健康サポート薬局のみ回答
 - ・ 面処方箋応需の実態と応需した際の課題：6 問
- 方法：会員企業窓口担当者より管轄薬局に WEB フォームをご案内ください。
WEB フォーム <https://forms.gle/xuWfqWpGQ9MfbVA6t>
- 回答期日：2023 年 12 月 18 日～2024 年 1 月 31 日
- 実施主体：一般社団法人日本保険薬局協会 薬局機能創造委員会
- 倫理審査：日本薬局学会倫理審査委員会 受付番号 23005

【アンケートポリシー】

調査に関して、WEB フォームの構築及び回答データの蓄積は、外部に委託し、当協会と受託者は秘密保持契約を締結しています。受託者は回答会社名や、回答薬局名、回答者名等、個社や個人が特定できる情報を削除し、それらが含まれていないことを確認したうえで、データが当協会事務局へ提供され分析が行われます。データ集計、分析、報告書の作成、情報発信の過程において、ご回答いただいた個社及び回答者の情報が当協会内外に漏れることはございません。また、当調査の報告書は NPhA ホームページへの公開を予定しており、その他、学会発表等の学術活動、行政や医療業界団体への情報提供等の業界活動として活用される可能性がございます。

本調査の目的及びアンケートポリシーにご賛同いただける場合にご回答をお願いいたします。回答後に回答データの削除を希望される場合は、下記の問い合わせ先までご連絡ください。なお、ご回答いただけない場合であっても何ら不利益を被ることはございません。

【問い合わせ先】

一般社団法人 日本保険薬局協会 事務局 石井 僚
〒103-0027 東京都中央区日本橋 3-12-2 朝日ビルディング 4 階
TEL：03-3243-1075 メール：ryo.ishii.jg7@ainj.co.jp

ー2023 年度冬の管理薬剤師アンケート（1 薬局 1 回答）の内容ー

※「★」は必須回答設定の設問となります。

■薬局機能及び体制についてお伺いします

★問 1. 貴店の所在する都道府県を教えてください。

01 北海道 02 青森県 03 岩手県 04 宮城県 05 秋田県 06 山形県 07 福島県 08 茨城県 09 栃木県 10 群馬県 11 埼玉県 12 千葉県 13 東京都 14 神奈川県 15 新潟県 16 富山県 17 石川県 18 福井県 19 山梨県 20 長野県 21 岐阜県 22 静岡県 23 愛知県 24 三重県 25 滋賀県 26 京都府 27 大阪府 28 兵庫県 29 奈良県 30 和歌山県 31 鳥取県 32 島根県 33 岡山県 34 広島県 35 山口県 36 徳島県 37 香川県 38 愛媛県 39 高知県 40 福岡県 41 佐賀県 42 長崎県 43 熊本県 44 大分県 45 宮崎県 46 鹿児島県 47 沖縄県

★問 2. 貴店の所在地の郵便番号を教えてください。（半角整数 ハイフンなし）例：1030027
●●●●●●●●

★問 3. 貴店の所在地は離島もしくはへき地に該当しますか？ ※へき地は調剤基本料 1 の注 1 のただし書きで「医療を提供しているが医療資源の少ない地域」に規定されている地域と捉えてください。

☐ 離島・へき地に該当する ☐ 該当しない

★問 4. 貴店の開局時期を教えてください。

☐ 開局して 1 年未満（2023 年 1 月～2023 年 12 月の開局）

☐ 開局して 1～3 年未満（2021 年 1 月～2022 年 12 月の開局）

☐ 開局して 3～5 年未満（2019 年 1 月～2020 年 12 月の開局）

☐ 開局して 5～10 年未満（2014 年 1 月～2018 年 12 月の開局）

☐ 開局して 10 年以上（2013 年 12 月以前の開局）

★問 5. 貴店の立地形態について教えてください。

・ 病院前（500 床以上） ・ 病院前（200 床以上 500 床未満） ・ 病院前（200 床未満）
・ 診療所前 ・ 病院敷地内 ・ 診療所敷地内 ・ モール型（医療ビル含む） ・ 面対応
・ その他（ ）

★問 6. 貴店が所属する薬局グループ全体の薬局数について教えてください。

・ 1 薬局 ・ 2～5 薬局 ・ 6～19 薬局 ・ 20～99 薬局 ・ 100～299 薬局 ・ 300 薬局以上

★問 7. 営業時間について教えてください。

① 「平日 1 日 8 時間以上開局かつ土日いずれかの開局かつ週 45 時間以上開局」を満たしていない。

② 「平日 1 日 8 時間以上開局かつ土日いずれかの開局かつ週 45 時間以上開局」を満たし

調査内容

ている。

- ③ ②を満たし、かつ、年中無休である
- ④ ②を満たし、かつ、24時間営業である
- ⑤ ②を満たし、かつ、年中無休かつ24時間営業である

★問8. 24時間調剤・在宅対応体制（地域支援体制加算の施設基準）の有無を教えてください。

- ・自薬局にて体制あり
- ・同じ薬局グループの近隣薬局との連携にて体制あり
- ・他薬局グループの近隣薬局との連携にて体制あり
- ・体制なし

★問9. 認定取得や届出について教えてください（複数回答可）

- ・地域連携薬局
- ・専門医療機関連携薬局
- ・健康サポート薬局
- ・なし

★問10. 貴店は無菌調剤処理設備を有していますか？（複数選択可）

- ・無菌調剤室（クリーンルーム）
- ・クリーンベンチ
- ・安全キャビネット
- ・他薬局との無菌調剤室の共同利用契約あり（貸し出す側）
- ・他薬局との無菌調剤室の共同利用契約あり（借りる側）
- ・なし

★問11. 貴店のICTを活用したサービスを教えてください。（複数選択可）

- ☐ 電子処方箋受付体制
- ☐ 電子版お薬手帳
- ☐ 患者とのチャット機能があるサービス
- ☐ 処方箋画像送信機能があるサービス
- ☐ オンライン服薬指導機能（音声のみは除く）があるサービス
- ☐ オンライン診療とオンライン服薬指導とが連動されたサービス（Pharms,curon,SOKUYAKU等）
- ☐ その他（ ）

問12. 2023年11月時点の貴店の人員体制について教えてください。（※常勤換算）

※1週間の勤務時間のすべてを勤務する者の数。32時間未満の者は32時間で除した数とする。

★問12-1. 薬剤師の配属人員

- ・1人未満
- ・1人-2人未満
- ・2人-3人未満
- ・3人-4人未満
- ・4人-5人未満
- ・5人-6人未満
- ・6人-7人未満
- ・7人-8人未満
- ・8人-9人未満
- ・9人-10人未満
- ・10人-12人未満
- ・12人-14人未満
- ・14人-16人未満
- ・16人-18人未満

- ・18人-20人未満
- ・20人以上

★問12-2. かかりつけ薬剤師の要件を満たしている薬剤師の在籍数

- ・0人
- ・1人
- ・2人
- ・3人
- ・4人
- ・5人
- ・6人
- ・7人
- ・8人
- ・9人
- ・10人
- ・11人以上

★問12-3. 直近3カ月（2023年9月～11月）においてかかりつけ薬剤師指導料の実績がある薬剤師の在籍数

- ・0人
- ・1人
- ・2人
- ・3人
- ・4人
- ・5人
- ・6人
- ・7人
- ・8人
- ・9人
- ・10人
- ・11人以上

★問12-4. 直近3カ月（2023年9月～11月）において在宅訪問薬剤管理の実績がある薬剤師の在籍数

- ・0人
- ・1人
- ・2人
- ・3人
- ・4人
- ・5人
- ・6人
- ・7人
- ・8人
- ・9人
- ・10人
- ・11人以上

★問12-5. 健康サポート薬局研修を修了、かつ、薬局実務経験5年以上を満たしている薬剤師の在籍数

- ・0人
- ・1人
- ・2人
- ・3人
- ・4人
- ・5人
- ・6人
- ・7人
- ・8人
- ・9人
- ・10人
- ・11人以上

■薬局の実績についてお伺いします

問13. 2023年11月時点の貴店における調剤基本料及び地域支援体制加算について教えてください。

★問13-1. 貴店の処方せん集中度について教えてください。

※処方せん集中度とは、貴店の調剤基本料を算定する際の値とお考えください。

- ・30%未満
- ・30-40%未満
- ・40-50%未満
- ・50-60%未満
- ・60-70%未満
- ・70-80%未満
- ・80-90%未満
- ・90-95%未満
- ・95%以上

★問13-2. 調剤基本料を教えてください。

- ・調剤基本料1
- ・調剤基本料2
- ・調剤基本料3-イ
- ・調剤基本料3-ロ
- ・調剤基本料3-ハ
- ・特別調剤基本料

★問13-3. 地域支援体制加算を教えてください。

- ・加算1
- ・加算2
- ・加算3
- ・加算4
- ・加算なし

調査内容

問 14. 貴店の月間処方せん受付回数（2023 年 11 月実績）について教えてください。

★問 14-1. 2023 年 11 月の月間処方せん受付回数を教えてください。（半角整数 単位:回）

例：2345

●●●●

★問 14-2. 問 14-1 のうちマイナンバーカード（マイナ保険証）の持参確認や、受付での利用の声掛けを実施したおおよその割合を教えてください。

☐実施なし ☐10%未満 ☐10-50%未満 ☐50-90%未満 ☐90%以上

★問 14-3. 問 14-1 のうちマイナ保険証受付を実施したおおよその割合を教えてください。

☐実績なし ☐0-1%未満 ☐1-3%未満 ☐3-5%未満 ☐5-10%未満
☐10-15%未満 ☐15-20%未満 ☐20-30%未満 ☐30-40%未満 ☐40-50%未満
☐50%以上

★問 14-4. 問 14-1 のうち電子処方箋が原本となる受付回数を教えてください。※電子処方箋による受付がない場合は「0」と回答ください。（半角整数 単位：回）例：10

●●●●

★問 14-5. 問 14-1 のうちリフィル処方箋による受付回数を教えてください。※リフィル処方箋による受付がない場合は「0」と回答ください。（半角整数 単位：回）例：10

●●●●

★問 14-6. 2023 年 11 月の服薬管理指導料 4（情報通信機器を用いた服薬指導を行った場合）の算定回数を教えてください。（半角整数 単位:回）※算定実績がない場合は「0」と回答ください。例:123

●●●●

問 15. 貴店における在宅訪問について教えてください。※医療・介護保険合わせてカウントください。

★問 15-1. 直近 1 年間の在宅訪問回数を教えてください。※施設訪問含む。

・実績なし ・年 12 回未満 ・年 12～24 回未満 ・年 24 回～48 回未満
・年 48～96 回未満 ・年 96 回～192 回未満 ・192 回以上

★問 15-2. 問 15-1 のうち単一建物診療患者が一人の場合の在宅訪問回数を教えてください。

・実績なし ・年 12 回未満 ・年 12～24 回未満 ・年 24 回～48 回未満
・年 48～96 回未満 ・年 96 回～192 回未満 ・192 回以上

■医療提供施設や介護関係施設等との連携についてお伺いします

★問 16-1. 医療機関の地域連携室（それに類似する部署）との連携頻度を教えてください。

※担当者との面会や電話等の情報通信機器を用いたやり取りの頻度と捉えてください。

☐毎日 ☐週に 1～数回 ☐月に 1～数回 ☐数ヶ月に 1～数回 ☐半年に 1～数回
☐1 年に 1～数回 ☐直近はないが過去に経験はある ☐経験なし

★問 16-2. 連携の内容について教えてください。（複数回答可）

☐時間外・夜間・休日の連携 ☐緊急時の連携
☐薬局の既存患者に係る連携 ☐新規患者に係る連携（紹介等）
☐服薬情報等提供書の送付 ☐医薬品の採用・在庫に係る連携
☐麻薬調剤に係る連携 ☐無菌調剤に係る連携
☐入院に係る連携 ☐退院に係る連携 ☐在宅移行に係る連携
☐地域ケア会議における連携 ☐サービス担当者会議における連携
☐認知症初期集中支援チームにおける連携 ☐勉強会等の人材育成に係る連携
☐連携の経験なし ☐その他

問 16-3. 問 16-2 の連携の中で印象に残っている具体的な事例があれば教えてください、また「その他」を選択された方は具体的な内容を教えてください。（フリーコメント 任意回答）

★問 17-1. 他薬局との連携頻度を教えてください。※担当者との面会や電話等の情報通信機器を用いたやり取りの頻度と捉えてください。同一グループ内の日常的な業務連絡は除いてください。

☐毎日 ☐週に 1～数回 ☐月に 1～数回 ☐数ヶ月に 1～数回 ☐半年に 1～数回
☐1 年に 1～数回 ☐直近はないが過去に経験はある ☐経験なし

★問 17-2. 連携の内容について教えてください。（複数回答可）

☐時間外・夜間・休日の連携 ☐緊急時の連携
☐薬局の既存患者に係る連携 ☐新規患者に係る連携（紹介等）
☐服薬情報等提供書の送付 ☐医薬品の採用・在庫に係る連携
☐麻薬調剤に係る連携 ☐無菌調剤に係る連携

調査内容

☐入院に係る連携 ☐退院に係る連携 ☐在宅移行に係る連携
☐地域ケア会議における連携 ☐サービス担当者会議における連携
☐認知症初期集中支援チームにおける連携 ☐勉強会等の人材育成に係る連携
☐連携の経験なし ☐その他

問 17-3、問 17-2 の連携の中で印象に残っている具体的な事例があれば教えてください、また「その他」を選択された方は具体的な内容を教えてください。(フリーコメント 任意回答)

★問 18-1、訪問看護ステーションとの連携頻度を教えてください。※担当者との面会や電話等の情報通信機器を用いたやり取りの頻度と捉えてください。

☐毎日 ☐週に1～数回 ☐月に1～数回 ☐数ヶ月に1～数回 ☐半年に1～数回
☐1年に1～数回 ☐直近はないが過去に経験はある ☐経験なし

★問 18-2、連携の内容について教えてください。(複数回答可)

☐時間外・夜間・休日の連携 ☐緊急時の連携
☐薬局の既存患者に係る連携 ☐介護を必要とする高齢者の紹介
☐服薬情報等提供書の送付 ☐医薬品の採用・在庫に係る連携
☐麻薬調剤に係る連携 ☐無菌調剤に係る連携
☐入院に係る連携 ☐退院に係る連携 ☐在宅移行に係る連携
☐地域ケア会議における連携 ☐サービス担当者会議における連携
☐認知症初期集中支援チームにおける連携 ☐勉強会等の人材育成に係る連携
☐連携の経験なし ☐その他

問 18-3、問 18-2 の連携の中で印象に残っている具体的な事例があれば教えてください、また「その他」を選択された方は具体的な内容を教えてください。(フリーコメント 任意回答)

★問 19-1、介護関連支援施設（地域包括支援センター、居宅介護支援事業所等）との連携頻度を教えてください。※担当者との面会や電話等の情報通信機器を用いたやり取りの頻度と捉えてください。

☐毎日 ☐週に1～数回 ☐月に1～数回 ☐数ヶ月に1～数回 ☐半年に1～数回
☐1年に1～数回 ☐直近はないが過去に経験はある ☐経験なし

★問 19-2、連携の内容について教えてください。(複数回答可)

☐時間外・夜間・休日の連携 ☐緊急時の連携
☐薬局の既存患者に係る連携 ☐介護を必要とする高齢者の紹介
☐服薬情報等提供書の送付 ☐医薬品の採用・在庫に係る連携
☐麻薬調剤に係る連携 ☐無菌調剤に係る連携
☐入院に係る連携 ☐退院に係る連携 ☐在宅移行に係る連携
☐地域ケア会議における連携 ☐サービス担当者会議における連携
☐認知症初期集中支援チームにおける連携 ☐勉強会等の人材育成に係る連携
☐連携の経験なし ☐その他

問 19-3、問 19-2 の連携の中で印象に残っている具体的な事例があれば教えてください、また「その他」を選択された方は具体的な内容を教えてください。(フリーコメント 任意回答)

■健康サポート薬局についてお伺いします ※問 20-26 は健康サポート薬局の届出薬局の方のみ回答ください。

問 20、健康サポート薬局に供給することが求められる「基本的な48薬効群」について、直近1年間において販売実績がないカテゴリーを教えてください。(複数選択可)

☐1 かぜ薬（内用） ☐2 解熱鎮痛薬 ☐3 催眠鎮静薬 ☐4 睡眠防止薬
☐5 鎮うん薬（乗物酔防止薬、つわり用薬含む） ☐6 小児鎮静薬（小児五疳薬等）
☐7 その他の精神神経用薬 ☐8 ヒスタミンH2受容体拮抗剤含有薬 ☐9 制酸薬
☐10 健胃薬 ☐11 整腸薬 ☐12 制酸・健胃・消化・整腸を2つ以上標榜するもの
☐13 胃腸鎮痛鎮けい薬 ☐14 止瀉薬 ☐15 瀉下薬（下剤） ☐16 洗腸薬
☐17 強心薬（センソ含有製剤等） ☐18 動脈硬化用薬（リノール酸、レシチン主薬製剤等）
☐19 その他の循環器・血液用薬 ☐20 鎮咳去痰薬 ☐21 含嗽薬
☐22 内用痔疾用剤、外用痔疾用剤 ☐23 その他の泌尿生殖器官及び肛門用薬
☐24 ビタミン主薬製剤等 ☐25 その他の滋養強壮保健薬 ☐26 婦人薬
☐27 その他の女性用薬 ☐28 抗ヒスタミン薬主薬製剤 ☐29 その他のアレルギー用薬
☐30 殺菌消毒薬（特殊絆創膏を含む） ☐31 しもやけ・あかざれ用薬
☐32 化膿性疾患用薬 ☐33 鎮痛・鎮痒・収れん・消炎薬（バップ剤を含む）
☐34 みずむし・たむし用薬 ☐35 皮膚軟化薬（吸出しを含む）
☐36 毛髪用薬（脱毛、養毛、ふけ、かゆみ止め用薬等） ☐37 その他の外皮用薬
☐38 一般点眼薬、人工涙液、洗眼薬 ☐39 抗菌性点眼薬
☐40 アレルギー点眼薬 ☐41 鼻炎用内服薬、鼻炎点鼻薬
☐42 口腔咽喉薬（せき、たんを標榜しないトローチ剤を含む） ☐43 口内炎用薬

調査内容

☐44 歯痛・歯槽膿漏薬 ☐45 禁煙補助剤 ☐46 漢方製剤等 ☐47 消毒薬 ☐48 殺虫薬

問 21. 「基本的な 48 薬効群」のうちよく売れるカテゴリー5つ選択ください。※金額ではなく販売頻度で捉えてください。販売実績が多い場合は感覚的な回答でも構いません。

☐1 かぜ薬（内用） ☐2 解熱鎮痛薬 ☐3 催眠鎮静薬 ☐4 睡眠防止薬
☐5 鎮うん薬（乗物酔防止薬、つわり用薬含む） ☐6 小児鎮静薬（小児五疳薬等）
☐7 その他の精神神経用薬 ☐8 ヒスタミン H2 受容体拮抗剤含有薬 ☐9 制酸薬
☐10 健胃薬 ☐11 整腸薬 ☐12 制酸・健胃・消化・整腸を2つ以上標榜するもの
☐13 胃腸鎮痛鎮けい薬 ☐14 止瀉薬 ☐15 瀉下薬（下剤） ☐16 洗腸薬
☐17 強心薬（センソ含有製剤等） ☐18 動脈硬化用薬（リノール酸、レシチン主薬製剤等）
☐19 その他の循環器・血液用薬 ☐20 鎮咳去痰薬 ☐21 含嗽薬
☐22 内用痔疾用剤、外用痔疾用剤 ☐23 その他の泌尿生殖器官及び肛門用薬
☐24 ビタミン主薬製剤等 ☐25 その他の滋養強壮保健薬 ☐26 婦人薬
☐27 その他の女性用薬 ☐28 抗ヒスタミン薬主薬製剤 ☐29 その他のアレルギー用薬
☐30 殺菌消毒薬（特殊絆創膏を含む） ☐31 しもやけ・あかぎれ用薬
☐32 化膿性疾患用薬 ☐33 鎮痛・鎮痒・収れん・消炎薬（パップ剤を含む）
☐34 みずむし・たむし用薬 ☐35 皮膚軟化薬（吸出しを含む）
☐36 毛髪用薬（発毛、養毛、ふけ、かゆみ止め用薬等） ☐37 その他の外皮用薬
☐38 一般点眼薬、人工涙液、洗眼薬 ☐39 抗菌性点眼薬
☐40 アレルギー用点眼薬 ☐41 鼻炎用内服薬、鼻炎用点鼻薬
☐42 口腔咽喉薬（せき、たんを標榜しないトローチ剤を含む） ☐43 口内炎用薬
☐44 歯痛・歯槽膿漏薬 ☐45 禁煙補助剤 ☐46 漢方製剤等 ☐47 消毒薬 ☐48 殺虫薬

問 22. 健康サポート薬局であることや、健康サポート機能を発揮することの収益面でのメリットを教えてください。（複数回答可）

☐増患につながった ☐主応需医療機関以外からの処方箋応需が増えた
☐在宅実績につながった ☐OTC 売上が増えた
☐衛生材料及び介護用品等の売上が増えた ☐健康食品・サプリメント等の売上が増えた
☐その他保険外サービスの売上が増えた ☐収益面のメリットはない

問 23. 問 22 で選択された収益面でのメリットについて、具体的にどのような状況でどの程度、収益に貢献しているか教えてください。（フリーコメント 任意回答）

問 24. 健康サポート薬局であることや、健康サポート機能を発揮することの収益面以外のメリットを教えてください。（複数回答可）

☐地域における薬局の認知度が上がった
☐患者や地域住民の薬局に対する満足度が向上した
☐患者との会話の幅が広がった ☐薬局職員の成長、意識向上につながった
☐地域の医療提供施設との連携が増えた ☐地域の介護関係施設との連携が増えた
☐薬剤師会、医師会等の業界団体との連携が増えた
☐自治体等の行政機関との連携が増えた
☐特になし ☐その他

問 25. 問 24 で選択された収益面以外のメリットの中で印象に残っている具体的な事例があれば教えてください。また「その他」を選択された方は具体的な内容を教えてください。（フリーコメント 任意回答）

問 26. 健康サポート薬局に係る特出すべき課題や要望事項があれば教えてください。（フリーコメント 任意回答）

■面処方箋を応需した際の対応についてお伺いします

調査目的：リフィル処方箋や電子処方箋が普及した先に各薬局における面処方箋（日頃応需機会が少ない医療機関の処方）の応需機会が増えることを見越して、現時点の面処方箋対応における課題調査を目的としています。

面処方箋：本調査では「受付回数が月5回以下」となる医療機関の処方箋とします。

問 27. 2023 年 11 月の処方箋受付の中で、応需した全医療機関数を教えてください。（半角整数 単位:医療機関）※同一医療機関の診療科違いは合わせて一つとカウントください。おおよその数でも構いません。例:23

●●●

問 28. 2023 年 11 月の処方箋受付の中で、「受付回数が5回以下」の医療機関数を教えてください。（半角整数 単位:医療機関）※おおよその数でも構いません。実績がない場合は「0」と回答ください。例:5

●●●

問 29. 面処方箋を持参される患者は次のうちどのような患者が多いですか？

☐定期利用患者が多い
☐不定期利用患者（3 か月以上継続来局なし）が多い
☐新規患者が多い

調査内容

☐特に傾向なし

問 30. 面処方箋を応需した場合、それ以外の場合と比べて薬局機能及び薬剤師職能を果たすことに難しさは感じますか？

☐とても感じる ☐やや感じる ☐あまり感じない ☐まったく感じない

問 31. 問 30 で「とても感じる」「やや感じる」と回答した方に伺います。薬局機能及び薬剤師職能を果たすことが難しい理由を教えてください。（複数選択可）

☐医療機関との連携の作法がわからないため ☐処方意図がわからないため

☐薬局の採用薬以外（在庫していない医薬品）が処方されるため

☐処方薬を揃えることに負荷がかかるため

☐入力や監査等の調剤工程により負荷がかかるため

☐患者情報が不十分な（十分に聞けない）ケースが多いため

☐一度きりの応需となる（継続応需とならない）ケースが多いため

☐その他

問 32. 問 31 で「その他」を選択された方は具体的な内容を教えてください。また、具体的に困ったエピソードがあれば教えてください。（フリーコメント 任意回答）

回答者情報

※いただいたご回答、ご意見に関して、お問い合わせさせていただく場合はございますが、会社名や薬局名が許可なく、NPhA 内外に公開されることはございません。

問. 所属会社名

問. 薬局名

問. 薬局の電話番号（ハイフンなし）

以上となります。ご協力ありがとうございました。



Nippon Pharmacy Association

日本保険薬局協会